

# 南相馬市博物館年報

令和3年度

令和4年11月

南相馬市博物館



## 発刊にあたって

南相馬市博物館は、福島県宮広域公園「東ヶ丘公園」の「歴史と伝承ゾーン」に位置づけられた緑豊かな自然林の中に立地し、相馬野馬追祭場地東側の本陣山に隣接しています。

当館は、平成7年8月、歴史・民俗部門と自然部門に加え、相馬野馬追の資料を収集展示する特色ある「野馬追の里歴史民俗資料館」として開館し、翌平成8年には博物館法にもとづく登録博物館となりました。

平成10年4月には「野馬追の里原町市立博物館」へと名称を変更、さらに平成18年1月1日、小高町・鹿島町・原町市の旧3市町が合併し南相馬市が誕生したことに伴い「南相馬市博物館」と名称を改めました。

開館以来、「地域の歴史文化について理解を深め、文化の伝承と保存に努める」ことを目的に、常設展示のほか、企画展示や特別展示、さまざまな講座、講演、体験学習などの開催に加え、図録や研究紀要の刊行など、博物館事業の充実に努めてまいりました。

平成23年3月に発生した東日本大震災、特に東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響により一時閉館しましたが、同年8月には、事業規模を縮小しながらも再開を果たしました。しかし、令和2年度には、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により臨時休館をするなど、その対策を講じながら運営しています。

本刊は、令和3年度の当館の運営状況や活動をまとめたものです。資料収集や調査研究、教育普及のほか、市民や他団体との連携の実績も掲載しました。

当館は、今後とも資料の調査研究や収集保存を積極的に行い、その成果を生かし、ふるさと教育を充実させつつ、地域文化の継承・向上に貢献してまいります。

これまで、ご支援、ご指導、ご協力賜りました方がたに深甚なる謝意を表しますとともに、今後とも当館の充実・発展のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月

南相馬市博物館

館長 堀 耕 平

# 目 次

## 発刊にあたって

I	南相馬市博物館の沿革	1
II	施設・設備の概要、機能	5
	1. 建物の概要	5
	2. 施設の概要	5
	3. 施設の機能	5
III	常設展示事業	6
	1. 展示の概要	6
	2. 展示資料の概要	6
IV	令和3年度事業実施概要	8
	1. 企画展示事業	8
	2. その他の展示事業	15
	3. 資料収集管理事業	21
	4. 調査研究事業	22
	5. 教育普及事業	24
	6. その他の事業	30
	7. 情報発信	31
V	管理運営	36
	1. 組織・職員	36
	2. 各委員会等	36
	3. 予 算	38
	4. 入館者統計等	39
VI	資 料	41
	1. 南相馬市立博物館条例	41
	2. 南相馬市立博物館規則	42
	3. 南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会要綱	45
	4. 南相馬市博物館収集展示委員会設置要綱	45
	5. 南相馬市博物館収集展示委員会運営細則	46
	6. 南相馬市博物館資料調査協力員会設置要綱	46

## I 南相馬市博物館の沿革

- 平成2年6月 建設基本構想検討委員会・起草委員会・庁内検討委員会を設置
- 3年3月 第1回建設基本構想検討委員会を開催
- 4年1月 資料館建設庁内プロジェクトチーム設置
- 4月 資料館収集展示委員会設置
- 10月 資料館基本設計実施設計検討委員会設置
- 11月 資料館展示工事・建築工事基本設計業務委託
- 5年5月 資料館建築工事・展示工事実施設計業務委託
- 6年2月 建築工事現場工事着工
- 7年3月 建築完成引渡
- 8月 「野馬追の里歴史民俗資料館」開館  
開館記念特別企画展「野馬追の歴史をふりかえる」  
第1期「野馬追の歴史」展・第2期「馬の装い 鞍と鐙」展開催
- 8年4月 開館記念特別企画展「野馬追の歴史をふりかえる」  
第3期「中ノ郷騎馬武者の甲冑」展・第4期「もののぐの優美」展開催
- 5月 博物館法に定める博物館に登録
- 8月 第3回企画展「縄文土器は語る―発掘された太古のくらし」開催
- 12月 第4回企画展「神々をまねくお神楽たち―獅子神楽の世界」開催
- 9年4月 第5回企画展「交通にみる近代化―海岸線の開通」開催
- 7月 第6回企画展「造形の美―当世具足の世界」開催
- 10月 第7回企画展「相馬中村藩の御仕法」開催
- 10年4月 「野馬追の里原町市立博物館」に名称変更
- 4月 第8回企画展「海の住人クジラー浜通りのクジラ化石」開催
- 6月 入館者5万人達成
- 7月 第9回企画展「武家の繁栄―祈りのしるし」開催
- 10月 第10回企画展「絵図からみた原町の周辺―江戸時代の地域観」開催
- 11年4月 第11回企画展「相馬のやきもの―收藏資料を中心として」開催
- 7月 第12回企画展「近世大名家の名品展―奥州板倉家を中心として」開催
- 12年1月 第13回企画展「古代の瓦と今の瓦―泉廃寺跡を中心として」開催
- 4月 福島県立美術館移動展「近代日本美術と相双の美術家たち」開催
- 7月 第14回企画展「鐙―その歴史と美」開催
- 10月 第15回企画展「絵馬 祈りと願い―相双地方を中心として」開催
- 12月 映像「南相馬の炭焼き」第6回全国地域映像コンクール優秀賞受賞
- 13年4月 第16回企画展「相馬の鋳物師―かなものの歴史と技術―」開催
- 7月 「野馬追」展開催
- 8月 夏休み特別企画「原町の鳥たち」開催
- 14年1月 第17回企画展「篆刻の世界―林泉汀作品を中心として―」開催
- 4月 福島県文化財センター白河館巡回展「新編陸奥国風土記―巻之一 白河郡」開催
- 7月 「野馬追」展開催
- 8月 入館者10万人達成

- 平成14年 8月 夏休み特別企画「原始・古代のくらしと道具」開催  
10月 第18回企画展「米づくりーむかしの暮らしの中で」開催
- 15年 1月 第19回企画展「中村藩の炮術ー関流炮術を中心としてー」開催  
4月 特別展「相馬地方の恐竜時代」開催  
6月 第20回企画展「大名具足と相馬の武具」開催  
7月 「野馬追」展開催  
8月 夏休み特別企画「よみ・かき・そろばん①ー江戸時代の風景ー」開催  
10月 第21回企画展「相馬地方の妙見信仰ー千葉氏から相馬氏へー」開催
- 16年 1月 発掘調査成果展「埋もれていた古のくらしーはらまちの遺跡Ⅰー」開催  
2月 市制50周年記念展「写真で見る原町市の50年」  
4月 福島県立博物館移動展「博物館から歴史を学ぶ」開催  
7月 「野馬追」展開催  
8月 夏休み特別企画「昔の道具とくらし」開催  
10月 第22回企画展「原町の動物 けもの・カエル・ヘビの仲間」開催
- 17年 1月 第23回企画展「戦国時代の相馬」開催  
4月 開館10周年記念特別展「原町市の文化財」開催  
6月 「野馬追」展開催  
7月 夏休み特別企画「はらまちの川と自然」  
9月 第24回企画展「発掘された日本列島2005」開催
- 18年 1月 3市町合併に伴い、博物館の名称を「南相馬市博物館」に変更  
第25回企画展「自然の恵みと祭りー海と川ー」開催  
4月 特別展「南相馬市の生き物ーふるさとの動物と植物ー」開催  
入館者15万人達成  
7月 第26回企画展「野馬追たんけん隊」開催  
9月 第27回企画展「相馬の画人 堀池雲岳をめぐる世界」開催
- 19年 1月 特別展「描かれた相馬野馬追」開催  
4月 特別展「みんな集まれ！ お宝だどお〜ー最近の博物館収蔵資料からー」開催  
7月 野馬追資料特別陳列  
8月 特別展「はくぶつかんで見たよ！ー教科書につなぐ博物館資料ー」開催  
「報徳記原稿」特別公開  
9月 第28回企画展「将門伝説ー相馬と周辺地域ー」開催  
11月 杉並区立郷土博物館共催展「相馬野馬追ー受け継がれる武家の伝統ー」開催  
(於：杉並区立郷土博物館分館)
- 20年 1月 第29回企画展「先人の足跡ー竹島國基が歩いた遺跡ー」開催  
4月 特別展「南相馬市の武家文化ー指定文化財からー」開催  
5月 杉並区立郷土博物館共催展「杉並文学館ー井伏鱒二と阿佐ヶ谷文士ー」開催  
7月 野馬追資料特別陳列  
8月 特別展「朝日座の軌跡 地方の映画館が遺したもの」開催  
10月 第30回企画展「田んぼのいきもの・たからものー人とともに歩んできた自然ー」開催
- 21年 1月 第31回企画展「相馬の武士 町に住む武士・村に住む武士」開催  
4月 特別展「アンモナイト・ワールドー相馬地方のアンモナイトとその仲間たちー」開催

- 平成21年 7月 野馬追資料特別陳列
- 8月 「福島県歴史資料館収蔵資料からみた 南相馬のちょっと昔」 展開催
- 10月 第32回企画展「相馬の馬」 開催  
入館者20万人達成
- 22年 1月 第33回企画展「相馬駒焼」 開催
- 4月 特別展「真野川のしぜんーなにがいのの？ しょくぶつ・どうぶつー」 開催
- 6月 野馬追資料特別陳列
- 8月 第34回企画展「台所からキッチンへー道具に見る便利さのゆくえー」 開催
- 10月 特別展「鹿島区の寺院展ー指定文化財を中心にー」 開催
- 23年 1月 企画展「古代陸奥の国 行方の郡家ー国史跡 泉官衛遺跡ー」 開催
- 3月11日 東日本大震災発生
- 3月12日 休館。東京電力(株)福島第一原子力発電所事故発生
- 8月5～7日 除染実施
- 8月9日 一部業務再開
- 24年 1月 特別展「ふるさと再発見 私たちのたからもの」 開催
- 4月 特別展「阿武隈高地の生き物たちー未来に向かって、生きるー」 開催
- 6月 特別展「相馬のたから 相馬野馬追」 開催
- 9月 福島県立美術館移動美術展「ふるさとの記憶 安らぎの美術」 開催
- 10月 福島県立博物館移動展「ジュラシック相馬 化石が語る恐竜時代の相馬地域」 開催
- 25年 1月 特別展「ふるさと小高」 開催
- 4月 特別展「福島に生きるー福島県の野生生物とナチュラルリストたちー」 開催
- 7月 特別展「野馬追の今と昔」 開催
- 9月 特別展「鹿島のたからもの 南相馬市のなかで」 開催
- 12月 映像「相馬野馬追ー真夏を疾走する伝統行事ー」 第11回全国地域映像コンクールグランプリ受賞
- 26年 1月 特別展「原町無線塔ー世界をつないだ白亜の巨塔」 開催
- 4月 特別展「被災地の原野に生きるー南相馬市の生き物と人・暮らしー」 開催
- 6月 復興浜団共催「こころの金魚 深堀隆介展 in 福島」 開催  
特別展「野馬追のビジュアルいまむかし」 開催
- 8月 国立科学博物館共催「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム 南相馬にアロサウルスがきたぞ！」 開催
- 27年 1月 特別展「博物館収蔵資料」 開催
- 4月 特別展「ふくしまに生きる爬虫・両性類ー身近な生き物から未来の南相馬・福島を考えるー」 開催
- 6月 特別展「相馬の物具文化」 開催
- 8月 武者絵展実行委員会共催「大武者絵展」 開催
- 9月 特別展「戦後70年記念 原町飛行場と戦争」 開催
- 10月 入館者25万人達成  
特別展「SACRIFICEー眠る地層にささげる花」 開催
- 28年 1月 福島県立博物館移動展「被災地からの考古学1ー福島県浜通り地方の原始・古代ーin 南相馬」 開催

- 平成28年 4月 特別展「文化財に見る市制10年の歩み 震災からの心の復興」開催  
7月 特別展「野馬追屏風の世界」開催  
9月 特別展「報徳仕法と浄土真宗門徒移民 奥州中村藩の復興への取り組み」開催  
29年 1月 特別展「櫻井先生のあつめた浜通りの花々」開催  
4月 特別展「博物館収蔵資料展2017」開催  
7月 特別展「武士の備え」開催  
9月 特別展「被災地の海を生きるーわたしたちの海 未来につなげる蒼い海ー」開催  
11月 特別展「東北押し葉標本」開催  
12月 映像「日吉神社の浜下り」第15回全国地域映像コンクール梶原拓記念奨励賞受賞  
30年 1月 特別展「日本の凧ー大橋コレクションー」開催  
4月 特別展「南相馬の樹<sup>き</sup>」開催  
6月 特別展「伊達成実 南相馬に来たるー北の大地に共存する相馬と伊達ー」開催  
9月 特別展「描かれた相馬野馬追2018」開催  
31年 1月 特別展「相双の化石大集合！」開催  
4月 企画展「双葉地方の昆虫」開催  
令和元年 5月 1日 「平成」から「令和」に改元  
6月 企画展「武士の装いーとりどりのかたち」開催  
9月 企画展「奥相三十三所観音札所巡り」開催  
11月 国立科学博物館巡回展「日本の生物多様性とその保全」開催  
令和2年 4～6月 新型コロナウイルス感染症拡大の影響および空調設備工事のため、臨時休館  
5月 企画展「南相馬の記念物90年」開催中止  
7月 企画展「馬に乗り・操り・愛でる」開催中止  
「相馬野馬追収蔵資料」展開催  
8月 企画展「相双地方のオリンピック」開催中止  
10月 企画展「冥界へようこそー仏画・幽霊画などからみた死生観ー」開催  
令和3年 3月 企画展「南相馬の震災10年」開催  
市内における新型コロナウイルス感染症拡大、市内施設の感染症対策確認のため2日間臨時休館  
7月 市内における、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による、福島県の「南相馬市における新型コロナ感染症集中対策」のため24日間臨時休館  
企画展「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」開催  
11月 企画展「中村藩と近代のはじまり」開催  
令和4年 1～2月 新型コロナウイルス感染症急拡大のため臨時休館。当初は1月31日までであったが、その後2月6日まで休館延長、さらに福島県の「まん延防止等重点措置」の重点措置地域に指定されたため2月20日まで休館再延長  
2月 企画展「やってきました！猫展 浮世絵で見る人と猫の文化史」開催  
3月 文化庁「食文化ミュージアム」事業において当館が認定される。  
3月16日に発生した福島県沖地震（最大震度6強）を受け、利用上の安全確認のため1日間臨時休館



## II 施設・設備の概要、機能

### 1. 建物の概要

建築面積／2,288.6㎡

構造／鉄筋コンクリート平屋建て（一部地下一階）

敷地面積／4,729.08㎡（県営広域公園内）

### 2. 施設の概要

管理部門／事務室 体験学習室 補修工作室 写場 燻蒸室 シアター  
エントランスホール

展示部門／常設展示室 特別展示室 展示ホール

収蔵部門／収蔵庫 特別収蔵庫

機械設備／高圧受電設備 空気調和設備 消防設備 防犯設備

部門別床面積／管理・機械部門 1,051.6㎡

展示部門 754.0㎡

収蔵部門 483.0㎡

駐車場／博物館駐車場 15台

公園南側駐車場（公園施設）74台

公園北側駐車場（公園施設）81台

### 3. 施設の機能

常設展示室／野馬追部門 自然部門 考古部門 歴史部門 民俗部門

特別展示室／年4回程度開催 定期企画展

シアター／映像による資料案内および学習（150インチ スクリーン対応映像設備）

収容人員83人（うち車椅子席3席）

体験学習室／収容人員43人 講演会・講座・講習会

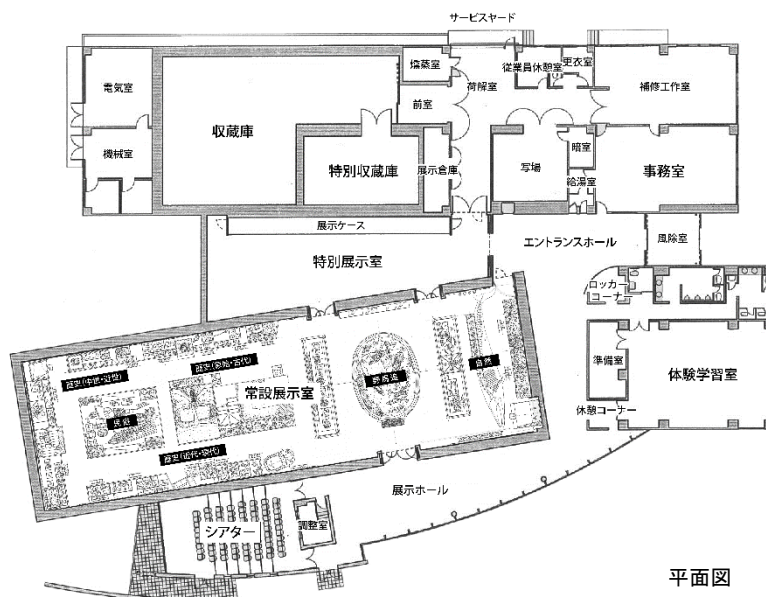
収蔵庫／積層棚 225㎡

特別収蔵庫／積層棚・箆筒 70㎡

補修工作室／資料復元補修および研究施設 84㎡

燻蒸室／展示・収蔵資料の燻蒸施設 12㎡

写場／収蔵資料の写真撮影施設 42㎡



## III 常設展示事業

### 1. 展示の概要

常設展示室と特別展示室を中心にシアター、展示ホール、エントランスホールによって構成している。国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」をはじめ、この地方に関する自然や歴史、民俗についての資料を公開することによって、野馬追の里として特色のある歴史と文化を紹介している。

常設展示室は野馬追、自然、歴史（原始・古代、中世・近世、近代・現代）、民俗の各部門で構成し、それぞれの展示テーマをもとに実物資料やグラフィック資料、映像資料、複製資料などを複合的に組み合わせた展示をしている。

順路は野馬追部門、自然部門、歴史部門、民俗部門へと続く。歴史部門の中央には羽山横穴の復元模型、実物の古代製鉄炉、近代・現代の文化人のコーナーがある。民俗部門は「馬と生きる」「新田川の恵み」の2つのテーマを設け展示している。

そのほか、各分野のミニテーマを展示するコーナーもある。

### 2. 展示資料の概要

#### 野馬追

神旗争奪戦ジオラマ 相馬野馬追諸道具（甲冑 相馬太田神社神輿 野馬追列帳 神旗 野馬懸諸道具など）  
相馬野馬追図屏風（複製） 野馬追絵巻（映像）

#### 自然

化石（古生代～新生代） 小型肉食恐竜足跡化石 ヒゲクジラ類脊椎骨化石 岩石標本 南相馬市原町区の地形模型 動植物のジオラマ 動植物写真パネル 人の進化（猿人、原人、旧人、新人の頭蓋骨標本） 馬の進化（図）  
南相馬市の自然（映像） 剥製（ウサギ・キジなど） 昆虫標本（ハッチョウトンボなど）

#### 歴史（原始・古代）

旧石器 浦尻貝塚出土品 縄文人の作業のようす（模型） 縄文時代の狩猟道具 縄文人の装飾品 弥生時代の農耕具 桜井遺跡出土品 古墳および横穴群地図 桜井古墳群出土品（底部穿孔二重口縁壺・銅鏡・鉄製直刀）  
竪穴住居（高見町A遺跡1号住居跡の模型） 高見町遺跡出土の塩釜式土器 羽山横穴の実物大模型および出土品 泉官衙遺跡出土品 大六天遺跡出土品 蛭沢遺跡群出土品 広畑遺跡出土墨書土器 金沢地区製鉄遺跡群長瀬遺跡整形炉（実物） 陸奥国官衙関連遺跡（図） 行方八社（図）

#### 歴史（中世・近世）

相馬氏の歴代系図 牛越城（模型） 中世行方地方の村（図） 県指定重要文化財木造十一面観音立像（模型） 相馬岡田文書（複製） 板碑（模型） 中村藩領地目録 三百一本の槍 給人郷土関係文書 中村藩の武士制度（図）  
原ノ町宿（模型） 商家の店頭風景（実物大模型） 天明の飢饉関係文書 報徳仕法関係文書 二宮尊徳坐像 富田高慶坐像（複製） 武山家住宅（模型）

#### 歴史（近代・現代）

原ノ町誕生までの町村の変遷図 戊辰戦争関係文書 官員文書（役職名簿） 明治初年行方郡行政区分（図） 日清・日露戦争関係図 関東大震災関係文書 手回し映写機 常磐線開通間もない頃の原ノ町駅構内（写真） 原町紡織(株)工場（写真） 原町紡織(株)関係文書 無線塔主塔（模型） 昭和初期の原ノ町駅のようす（模型および映像） 転車台（模型） C62機関車（模型） 原町飛行場関係写真 特別攻撃隊の写真および遺品 薬莖・銃弾 配給品購入台帳 戦時中の雑誌 農地解放関係図・写真 常磐線の電化完成（写真） 開業当時の丸三製紙(株)原町工場（写真） 無線塔解体（写真） 佐藤精明関係遺品 羽根田利夫関係文書および写真 羽根田利夫新彗星発見時の手作り望遠鏡 昭和41年製軽自動車（スバル360） 無線塔頭部（屋外展示） C50機関車（屋外展示）

#### 民俗

農耕馬の模型および馬耕用具 かなぐつ屋の用具 フイゴ 蹄鉄 馬頭観世音石塔（模型） 絵馬 馬頭尊護摩供の護符 猿駒曳の護符 水産旧慣調（写真） 川舟 川漁関係写真および用具 鮭運搬用具 ヤナ場（模型） サケ雌雄（剥製） 明治・大正・昭和・平成時代の鮭漁（写真） 鮭料理（模型）



### 野馬追

相馬野馬追の勇壮な神旗争奪戦をジオラマで再現している。このほかに甲冑や野馬追の祭具、野馬追図屏風などを展示。野馬追の歴史と変遷を解説。



### 自然

自然との共存をテーマに、秋の山里の動植物を再現したジオラマ、原町区の地形模型、ヒゲクジラ類化石、ジュラ紀動植物化石の展示ほか、人や馬の進化を解説。



### 原始・古代

旧石器時代から平安時代まで、市内出土資料を中心に展示。史跡浦尻貝塚、桜井古墳、羽山横穴、泉官衙遺跡など。近年の発掘調査の成果から、当時の人びとの生活や文化を解説。



### 中世・近世

鎌倉時代から江戸時代までの、相馬氏の統治、中世の信仰、原ノ町宿の復元模型、天明の飢饉と村おこし、奥州中村藩の政治、報徳仕法などの資料を展示し、解説。



### 近代・現代

戊辰戦争から現代までの、明治・大正・昭和の世相を示す資料とともに、無線塔や転車台、昔の原ノ町駅の風景などの復元模型を展示。また、原町の文化人の紹介も行う。



### 民俗

人と馬、人と川との関わりを紹介する。馬を使った農耕具や絵馬などの馬に関する資料、鮭漁のヤナ場のようすや漁に使用された道具を通し、人びとの暮らしぶりを紹介。

## IV 令和3年度事業実施概要

## 1. 企画展示事業

## (1) 「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」

[担当学芸員] 二上文彦

[期 間] 令和3年7月3日～9月12日 41日間

\*当初の展示終了日は8月22日であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で7月8～31日が臨時休館となったため、休館日程を補うものとして、終了日を9月12日まで延長。

[観覧者数] 734人（一般664人、高校生6人、小・中学生64人）

[内 容] 国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」は、ここ10年間に2度の開催危機に見舞われた。平成23年の東日本大震災と、令和2年の新型コロナウイルス感染症の拡大である。いずれも規模を縮小するなどして伝統を継承することができたが、それら困難な状況下で再注目されたのが、「相馬地方の繁栄と安寧を祈願する」という野馬追の本質的意義であった。

野馬追は、飢饉、明治維新、太平洋戦争、東日本大震災、コロナ禍といった困難な時代にあつて、それぞれ工夫を凝らしながら継承してきた歴史をもつ。それをふりかえりながら、大震災から10年目を迎えた令和3年、震災以降の野馬追の復興のあゆみを中心に、野馬追とはいかなる行事であるのか、あらためてその意義を確認するものとした。

\*ここでは、現代における国指定重要無形民俗文化財の名称として「相馬野馬追」、それ以外は「野馬追」と表記しています。



企画展「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」の展示

## [展示構成]

## 1. 相馬野馬追とは

形を変えながらも現代に受け継がれている野馬追の歴史を、当館収蔵資料を中心に概観。

## 2. 野馬追の継承—その苦難の歴史

天明の飢饉、天保の飢饉、明治維新、太平洋戦争など、困難な時代にあつて野馬追がいかに継承されたかを紹介。

## 3. 東日本大震災と相馬野馬追

平成23年、震災時に開催された「東日本大震災復興相馬三社野馬追」や、その後の10年のあゆみをふりかえる。

## 4. コロナ禍のもと行われた 令和2年度“省略野馬追”

全世界的に広まった新型コロナウイルス感染症という、新たな困難に見舞われ、無観客で神事のみ執行という異例の開催となった令和2年度の野馬追を紹介。

## [展示資料]

## 1. 相馬野馬追とは

No.	資料名	資料概要（作者・制作年など）	所蔵等
1	「相馬野馬追」国指定重要無形民俗文化財指定証書	昭和53年5月 文化庁交付	相馬野馬追保存会
2	奥州相馬妙見祭其二 野馬追之図	江戸時代後期か 多色木版刷 一立斎広重写	当館
3	磐城国相馬三社祭礼馳馬之図	明治時代以降 木版刷 渡辺万五郎画・新妻作助出版	舘岡敏美氏

No.	資料名	資料概要（作者・制作年など）	所蔵等
4	野馬追絵はがき	近代野馬追（御練り出し、宵乗り競馬、御行列、神旗争奪戦、野馬懸、馬術稽古など）（9点）	佐藤健一氏・個人
5	相馬地方名勝案内	昭和5年 仙台鉄道局発行	佐藤健一氏
6	相馬野馬追之景	明治39年 銅板画 佐藤徳助記 晴峰画	当館
7	在郷給人郷士知行高旗調 北郷・山中郷	慶応2年（1866）写	鈴木敬徳氏
8	在郷給人郷士知行高旗之紋調帳 中ノ郷	江戸時代後期	鈴木敬徳氏
9	在郷給人郷士知行高旗之紋調帳 小高・両標葉郷	安政7年（1860） 上浦村住人善兵衛写	鈴木敬徳氏
10	野馬追備列絵巻 「二之先手 士大将相馬主税組」巻	江戸時代後期 紙本著色 卷子 作者不明 幅20cm×長さ748cm	当館
11	野馬追備列絵巻 「殿 御旗本備」巻	江戸時代後期 紙本著色 卷子 作者不明 幅20cm×長さ864cm	当館
12	陣太鼓	江戸時代 南相馬市指定文化財	相馬太田神社
13	御兵具御改帳	文化10年（1804）	当館（門馬一彦氏寄贈）
14	黒漆塗鳩胸五枚胴具足	江戸時代中期 兜銘「明珠信家作」	個人
15	奥州相馬妙見祭 其一 行列之図	江戸時代後期か 多色木版刷 一立斎広重写	当館
16	野馬追図屏風	江戸時代後期～末期 八曲一隻 奥山盤里画	個人
17	相馬祭之図	江戸時代後期 紙本著色 卷子 作者不明 幅26cm×長さ1000cm	舘岡敏美氏

## 2. 野馬追の継承—その苦難の歴史

No.	資料名	資料概要（作者・制作年など）	所蔵等
18	相馬祥胤願文	天明8年（1788）4月 相馬祥胤	相馬市歴史資料収蔵館
19	相馬藩御経済略記	嘉永7年（1854）編纂	当館
20	御野馬追之次第	壬申（明治5年）5月	佐藤重郎氏
21	講武会関係綴（「昭和20年度事業成績書報告」）	昭和20年 相馬野馬追講武会 会長 植松練磨	佐藤重郎氏
22	昭和21年度事業成績書報告（下書き）	昭和21年 相馬野馬追騎馬会 会長 佐藤弘毅	佐藤重郎氏
23	昭和22年度事業成績書報告（下書き）	昭和22年 相馬野馬追講武会 会長 佐藤弘毅	佐藤重郎氏

## 3. 東日本大震災と相馬野馬追

No.	資料名	資料概要（作者・制作年など）	所蔵等
24	「東日本大震災復興 相馬三社野馬追」肩印と喪章	平成23年7月23日使用	菅野長八氏
25	ひび割れた道をすすむ騎馬武者（写真）	平成23年7月23日撮影 鹿島区永田	佐藤浩章氏
26	東方へ黙とうする武者たち（写真）	平成23年7月23日撮影 相馬市中村・相馬中村神社	大槻明生氏
27	お練り出し（写真）	平成23年7月23日撮影 相馬市中村・相馬中村神社	相馬野馬追執行委員会
28	作付けされなかった田の道をすすむ（写真）	平成23年7月23日撮影 鹿島区永田	佐藤浩章氏
29	お練り出しの行列（写真）	平成23年7月23日撮影 鹿島区鹿島	相馬野馬追執行委員会

## IV 令和3年度事業実施概要

No.	資料名	資料概要（作者・制作年など）	所蔵等
30	東方に向かって黙とう・螺の吹奏（写真）	平成23年7月24日撮影 原町区中太田・相馬太田神社	大槻明生氏
31	拝殿での修祓（写真）	平成23年7月24日撮影 原町区中太田・相馬太田神社	大槻明生氏
32	上げ野馬神事の会場となった多珂神社（写真）	平成23年7月25日撮影 原町区高・多珂神社	当館
33	馬を境内に引き連れる御小人（写真）	平成23年7月25日撮影 原町区高・多珂神社	大槻明生氏
34	上げ野馬の神事（写真）	平成23年7月25日撮影 原町区高・多珂神社	当館
35	多珂神社すぐ横にあった「警戒区域」境界（写真）	平成23年7月25日撮影 原町区高・多珂神社前	大槻明生氏
36	「今年こそは相馬野馬追を」横断幕	平成23～24年 原町区牛来・雲雀ヶ原祭場地で使用	当館（中ノ郷騎馬会寄贈）
37	映像作品「東日本大震災復興 相馬三社野馬追」	平成25年 企画：南相馬市博物館 制作：日経映像	当館
38	瓦礫から見つかった「侍大将」肩印	平成22年野馬追で使用	菅野長八氏
39	瓦礫から見つかった野馬追の写真	平成中頃撮影	菅野長八氏
40	朱漆塗腰取仏胴具足	平成23年被災騎馬武者に寄贈された甲冑。震災年の野馬追で使用	菅野長八氏
41	蒔田匠馬さんの肩印	平成22年野馬追で使用	蒔田保夫氏
42	警戒区域内から救出された馬（写真）	平成23年5月2日撮影 原町区片倉・馬事公苑	南相馬市
43	日高町に避難した馬たち（写真）	平成23年9月8日撮影 北海道日高町	北海道日高町
44	被災馬の受け入れ施設（写真）	平成23年12月29日撮影 北海道日高町・日高町家畜自衛防疫組合	北海道日高町
45	愛馬が避難先から帰郷（写真）	平成24年4月14日撮影 原町区	南相馬市
46	雲雀ヶ原祭場地の除染（写真）	平成24年5月29日撮影 原町区牛来・雲雀ヶ原祭場地	南相馬市
47	相馬小高神社内・御水舎の鳥居修復工事（写真）	平成24年6月14日撮影 小高区小高・相馬小高神社	南相馬市
48	除染後の祭場での乗馬練習（写真）	平成24年6月27日撮影 原町区牛来・雲雀ヶ原祭場地	当館
49	稲の代わりにヒマワリを植えた田の道をすすむ（写真）	平成24年7月28日撮影 原町区中太田・相馬太田神社前	南相馬市
50	徒歩で行われた相馬小高神社の「お繰り出し」（写真）	平成24年7月28日撮影 原町区牛来・雲雀ヶ原祭場地	当館
51	復活した神旗争奪戦（写真）	平成24年7月29日撮影 原町区牛来・雲雀ヶ原祭場地	南相馬市
52	復活した野馬懸（写真）	平成24年7月30日撮影 小高区小高・相馬小高神社	南相馬市
53	復活した小高区の「火の祭」（写真）	平成28年7月24日撮影 小高区	当館
54	復活した小高区の「御繰り出し」（写真）	平成29年7月29日撮影 小高区大町	当館
55	復活した浪江町の「お上がり行列」（写真）	平成30年7月29日撮影 浪江町権現堂・浪江駅前	当館
56	震災前の双葉町内のお繰り出し	平成19年7月23日撮影 双葉町新山	当館
57	震災前の大熊町内の「ミニ野馬追」	平成22年7月24日撮影 大熊町下野上	大熊町教育委員会

## 4. コロナ禍のもと行われた 令和2年度“省略野馬追”

No.	資料名	資料概要（作者・制作年など）	所蔵等
58	令和2年度 相馬野馬追（パネル）	令和2年7月25～27日撮影写真等（6点）	当館・南相馬市
59	映像作品「相馬野馬追2020」	令和2年 制作・著作／南相馬市・南相馬チャンネル	南相馬市・南相馬チャンネル
60	子どもたちが描いた野馬追の絵 幟旗	令和2年制作（21点）	当館蔵（原町青年会議所寄贈）

## (2) 「中村藩と近代のはじまり」

[担当学芸員] 森 晃洋

[期 間] 令和3年11月3日～令和4年1月23日 60日間

[観覧者数] 1,233人（一般712人、高校生389人、小・中学生132人）

[内 容] 明治2年の版籍奉還および明治4年の廃藩置県の実施により、大名による領国支配が終わり、中央集権国家をめざした明治政府による新しい時代がはじまった。

これまで大名が治めていた藩を廃止して新たに県を置いた廃藩置県は、相馬家が治めた中村藩においても実施された。中村藩が廃止され新たに中村県が置かれたことは、代々相馬地方を治めてきた相馬家による領国支配が終わりを迎えたことを意味する。

本企画展では、令和3年が廃藩置県の実施から150年を迎えたことを記念して、近世から近代へと大きく時代が動いた戊辰戦争から廃藩置県までに焦点を当て、新しい時代を迎えた中村藩を紹介した。

また、南相馬市合併前から各旧市町で編さんが続けていた『小高町史』『鹿島町史』『原町市史』が平成31年3月までに編さんを終えた。これらの市町史の調査により、新たな資料が数多く発見されている。その成果を本企画展においても活かし、地域の歴史を掘り下げるきっかけとした。

[展示構成]

1. 「中村県」の誕生
2. 幕末の政情
3. 戊辰戦争と中村藩
4. 新制下の中村藩
5. 廃藩置県と中村藩

[関連事業]

- ・講演「中村藩と近代のはじまり」

日時：令和3年12月11日 13時30分～15時

講師：森 晃洋

参加者数：36人



企画展「中村藩と近代のはじまり」の一部

[展示資料]

## 1. 「中村県」の誕生

No.	資料名	資料年代	所蔵等
1	中村県管轄三郡村地図	(明治4年)	佐藤重郎氏

## 2. 幕末の政情

No.	資料名	資料年代	所蔵等
2	江戸湾岸警固絵図写	(年不詳)	脇本敏明氏
3	異船防禦之趣	(年不詳)	佐藤重郎氏

IV 令和3年度事業実施概要

No.	資料名	資料年代	所蔵等
4	今般司令士より御達書	安政5年(1858)2月	個人
5	松本信助武備手当金献納褒賞状	文久2年(1862)閏8月	松本秀一氏
6	壮士十人江申達書	万延元年(1860)3月	村田了信氏
7	西善蔵・貫之助家に伝わる太刀・脇差		当館寄託
8	村々教諭之大綱	文久3年(1863)	佐藤重郎氏
9	御上京御役列帳	文久3年12月～同4年(1864)正月	鈴木敬徳氏
10	京江戸勤番雑記写	文久3年3月～元治元年(1864)5月	佐藤重郎氏

3. 戊辰戦争と中村藩

No.	資料名	資料年代	所蔵等
11	仙台模様聞取大略	(慶応4年:1868)	当館
12	相馬将監宛相馬季胤書状	(慶応4年)7月14日	渡邊正幸氏
13	軍陣日記	慶応4年6月12日～明治4年11月23日	佐藤高雄氏
14	出陣日記	慶応4年6月29日～8月28日	佐藤重郎氏
15	佐藤精明着用の陣羽織		佐藤重郎氏
16	佐藤精明着用の軍袍		佐藤重郎氏
17	中村藩帰順事情写	明治9年11月	佐藤重郎氏
18	藩境警備の下達書	(慶応4年8月12日)	村田了信氏
19	出陣中御用触写帳	慶応4年8月～10月	当館(大井家寄贈)
20	戦死姓名録	(慶応4年)	当館

4. 新制下の中村藩

No.	資料名	資料年代	所蔵等
21	奥羽御追討各藩御進撃調付見聞筆記	慶応4年8月～明治2年5月	佐藤重郎氏
22	富田高慶宛相馬季胤書簡	明治2年11月19日	当館
23	中村藩官員	(明治2～3年)	村田了信氏
24	中村藩大属任命書	明治3年5月15日	当館(金子満智子氏寄贈)
25	給人郷土足軽エ申渡趣	明治3年11月	遠藤忠盛氏
26	通用楮幣引換猶予願	明治3年12月25日	渡邊正幸氏
27	中村藩 藩札	(明治2～3年)	個人

5. 廃藩置県と中村藩

No.	資料名	資料年代	所蔵等
28	総藩士江申渡ス趣	明治4年7月	佐藤重郎氏
29	触達留	明治4年7月	佐藤重郎氏
30	当県管轄総高其他件之調	明治4年11月	当館
31	中村藩士族土着策稿本写	明治4年	佐藤重郎氏
32	富田高慶日記	明治4年8月25日	当館
33	今般新土着侍居所村付・御家中在住所付・中郷給人郷土軒数調	明治4年10月～5年2月	脇本敏明氏



## (3) 「やってきました！ 猫展 浮世絵で見る人と猫の文化史」

[担当学芸員] 堀 耕平・樋口晴菜

[期 間] 令和4年2月22日～4月10日 32日間

[観覧者数] 917人（一般792人、高校生14人、小・中学生111人）

\*当初の展示終了日は3月31日であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2月11～20日が臨時休館となったため、休館日程を補うものとして、終了日を4月10日まで延長。

[内 容] 今や家族同然の猫。しかしこれは、人と猫との長い関わりのなかでは、つい最近のことといえる。今から300年以上前の江戸時代後期以前には、猫は富裕層の愛玩動物であり、庶民にとっては鼠対策の実用的な家畜であった。その後、だんだんと町の女性や子どもにとって愛らしい存在としてかわいがられるようになった。そのことは、女性や子どもが猫をいつくしむ姿を描いた浮世絵がたくさん残されていることでも知ることができる。

近年、こうした人と猫の関係を浮世絵から探究した展覧会が全国的に数多く開催されている。今回、こうした展覧会に作品を提供してきた浮世絵の所有者から、被災地の復興支援として浮世絵を貸し出す申し出があった。当館ではそのご厚意を受けて展覧会を開催する運びに至った。

この展覧会では、猫を描いた代表的な浮世絵や見て楽しい浮世絵を紹介。人びとの暮らしのなかで変化してきた猫の存在、そして、どのように家族の一員として受け入れられてきたか、浮世絵を通して読み解いた。

あわせて、猫を養蚕の神様として祀っている川俣町の猫稻荷神社を紹介した。

## [展示構成]

1. 暮らしのなかの猫
2. 招き猫のルーツは？
3. 猫様はおかいこさまの神様です
4. おもちゃ絵の猫
5. 猫 化けます

## [関連事業]

1. 講演「猫の浮世絵を愉しむ」

日時：令和4年3月21日（月/祝）13：30～15：00

講師：則武広和氏（猫浮世絵愛好家） 参加者数：17人

2. 講演「江戸・猫の魅力と漫画の楽しみ方」

日時：令和4年3月27日（日）13：30～15：00

講師：山村東氏（漫画家） 参加者数：21人

3. 体験コーナー「猫の絵馬を作って飾ろう」

期間中、来館者が持参した猫の写真を絵馬にみためた台紙に貼って壁面に飾った。74点。

4. 体験コーナー「猫のおもちゃ絵で遊ぶ」

随時開催。「猫力士のトントン相撲」や、猫などの動物で「かつらの付け替え」「衣装の着せ替え」など、来館者が自由にあそぶコーナーを設けた。

5. 常設展示室ミニテーマコーナー「猫稻荷神社と猫絵馬」

企画展併設展示。養蚕で害をきたすネズミを退治する神様として信仰されてきた、川俣町西福沢地区の猫稻荷神社に奉納された猫絵馬を紹介。



企画展「やってきました！ 猫展 浮世絵で見る人と猫の文化史」ポスター

## [展示資料]

## 1. 暮らしのなかの猫

No.	作品名	絵師	出版年
1	初雪の戯遊	歌川国芳	弘化4～嘉永3年(1847～50)
2	思事鏡写絵 猫	初代歌川国貞	文政2年(1819)頃
3	江戸自慢美人揃	歌川貞景	天保2年(1831)頃
4	婦女鏡 豊	歌川国芳	天保14～弘化元年(1843～44)
5	絵兄弟やさすがた 鶴退治	歌川国芳	弘化2～3年(1845～46)
6	大津絵八景 神なりのよの雨	歌川国芳	嘉永2～6年(1849～53)
7	山海愛度図会 七 フゝいたい 越中滑川大蛸	歌川国芳	嘉永5年(1852)
8	山海めでたいづゑ 十九 はやくきめたい 播州高砂蛸	歌川国芳	嘉永5年(1852)
9	七婦久人 寿老人	歌川国芳	弘化4～嘉永元年(1847～48)
10	虫撰 こがね虫	歌川国芳	天保14～弘化4年(1843～47)
11	富ヶ岡八幡宮境内	初代歌川国貞	天保14～弘化3年(1843～46)
12	新柳二十四時 午前九時	月岡芳年	明治10年(1877)
13	古今比売鏡 薄雲	月岡芳年	明治8～9年(1875～76)
14	譬諭草をしへ早引 砥	歌川国芳	天保14年(1843)
15	見立松竹梅の内 たなばたの竹	歌川芳玉	天保14～弘化3年(1843～46)
16	子宝遊	初代歌川国貞	天保(1830～44)頃

## 2. 招き猫のルーツは？

No.	作品名	絵師・作者	出版年
17	俳優楽屋影評判 坂東寿三郎	二代長谷川貞信	明治17年(1884)
18	浄るり町繁花の図	初代歌川広重	嘉永5年(1852)
19	土人形 丸ゞ猫 3匹(復元品)	吉田義和	平成

## 3. 猫様はおかいこさまの神様です

No.	作品名	絵師	出版年
20	かひこ心得草 三・四	歌川芳員	安政6年(1859)
21	鼠除猫	未詳	明治中期

## 4. おもちゃ絵の猫

No.	作品名	絵師	出版年
22	新板階のりのづ	小林幾英	明治17年(1884)
23	新板猫乃花見	四代歌川国政	明治11年(1878)
24	新板猫の勉強学校	小林幾英	明治20年(1887)
25	新板猫の牛肉屋	小林幾英	明治12年(1879)
26	しん板猫のおさらい	歌川芳虎	明治前期
27	志んぱん猫の川がり	歌川国利	明治18年(1885)
28	大なまづ 祢古のたハむれ	未詳	明治後期
29	新板猫の温泉	歌川芳藤	明治21年(1888)
30	志ん板ねこのよめ入り	歌川芳藤	明治16年(1883)
31	新板ねずみのたわむれ	四代歌川国政	明治15年(1882)
32	新板猫の戯画	歌川芳藤	明治16年(1883)

No.	作品名	絵師	出版年
33	新板猫相撲づくし	歌川国直	明治18年(1885)
34	志ん板どうけかつらつけ	歌川芳藤	明治前期
35	大新板猫のいしょう付	未詳	明治前期

## 5. 猫 化けます

No.	作品名	絵師	出版年
36	五拾三次之内 岡崎の場	歌川国芳	天保6年(1835)
37	五拾三次之内 猫之怪	歌川芳藤	弘化4年(1847)
38	荷宝蔵壁のむだ書	歌川国芳	嘉永元年(1848)

## 2. その他の展示事業

## (1) ミニテーマコーナー

常設展示室の一部に小展示スペースを設け、学芸調査による研究成果の一部を展示した。

## ① 塔と壁画があった仮設住宅

[担当学芸員] 二上文彦

[期 間] 令和3年4月3日～5月26日

[内 容] 建築家とアーティストの合同作業による、「記憶に残る仮設住宅」というコンセプトで建てられた、異色の仮設住宅・牛河内第二仮設住宅(鹿島区)を紹介。

[展示資料] 牛河内第二仮設住宅の集会所に設置された、アーティスト彦坂尚嘉氏作のペイント作品「3.11」「復活」「みなみそうま」「FUKUSHIMA」「RESURRECTION」

## ② 震災から10年 原田泰治が見た風景「ポピー咲く家」

[担当学芸員] 二本松文雄

[期 間] 令和3年5月27日～9月10日

[内 容] 画家原田泰治が南相馬市の津波被災地で見つけた、鎮魂花のように咲いたポピーの花畑風景を紹介。

[展示資料] 「ポピー咲く家」ピエゾグラフ 40号 原田泰治作  
原田泰治肖像写真、原田と南相馬市民の交流写真、略歴

## ③ 原町無線塔デビュー100年

[担当学芸員] 二上文彦

[期 間] 令和3年9月11日～12月28日

[内 容] 大正10年(1921)から稼働した無線塔100年を記念し、無線塔の概要をはじめ、開局



ミニテーマコーナー 「原町無線塔デビュー100年」の展示

当時の資料を紹介。

[展示資料] 無線塔模型(1/165スケール)、無線塔コンクリート片、無線塔鉄筋、碍子(原町送信所使用)、磐城無線電信局開局記念パンフレット、開局記念絵はがき、蒔絵盆(原町送信所開局記念)、富岡屋酒店「ムデン」小皿

④ 相双地方の新生代～サーベルタイガーのころ～

[担当学芸員] 二上文彦

[期 間] 令和4年1月4～16日

[内 容] 新第三紀鮮新世後期～第四紀更新世初期の「大年寺層」から発見された、サーベルタイガーに近いとされる大型ネコ科化石を中心に、当時の相双地方の生き物たちを紹介。

[展示資料] 大年寺層産化石25点(大型ネコ科、ゾウ、イノシシ類、シカ、鱈脚類、ムカシブンプク、オオヘビガイ、ウバトリガイ、クロシビカマス?のなかま、サメガレイ、カルカロドン、鯨類)、ベンガルトラ頭骨レプリカ

⑤ 猫稻荷神社と猫絵馬

[担当学芸員] 堀 耕平

[期 間] 令和4年2月22日～4月28日

[内 容] 企画展「やってきました!猫展」の併設展示。養蚕で害をきたすネズミを退治する神様として信仰されてきた川俣町西福沢地区の猫稻荷神社と、そこに奉納された猫絵馬を紹介。

[展示資料] 猫絵馬(猫稻荷神社蔵)7点、写真パネル(猫稻荷神社社殿、猫碑)

(3) その他の展示

(2) エントランスホール展示

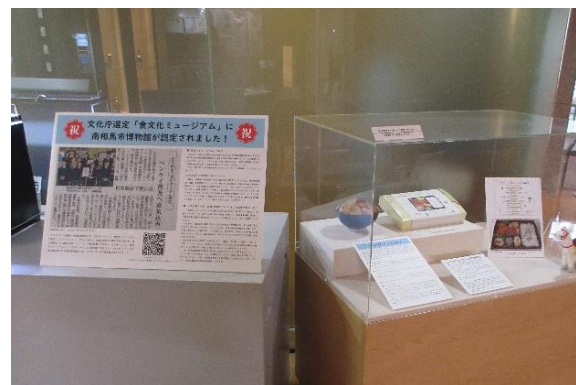
季節の話題・ニュース性があるテーマ、また常設展・企画展の導入としてエントランスホールを活用し、展示や情報提供を行った。

テーマ [担当学芸員]	展示期間	資料名
メダカ(生態展示)[仲川]	常 設	市内流域のメダカ
歴史をつなぐために 若い世代の新しい取り組み [川崎]	令和3年2月20日～ 5月7日	ベンケイ(レプリカ)、ふくしまイノベントウ
カヤネズミ(生体展示)[仲川]	3月2日～ 12月2日	カヤネズミ(小高区産)2頭
企画展「南相馬の震災10年」イン トロダクション [二上]	3月6日～ 5月5日	岡部昌生「おらほの碑」、片桐功敦「牛舎の 柱」、かしまの一本松
震災から10年 震災慰霊碑—後世 へのメッセージ [二本松]	3月6日～ 令和4年3月31日	市内の震災慰霊碑写真、市内の震災慰霊碑分布図
絡みあう風景—浦尻と小高—(ア ートと考古学国際交流研究会実行 委員会主催) [文化財係]	令和3年5月18日～ 6月13日	3人のアーティストによる小高をテーマとした 作品/川口蓮「回転する土器」「震える土器」ほ か、安芸早穂子「遺跡の野原のコミュニティーア ート」ほか、gwai「絡みあう痕跡」
野馬追の甲冑 [二上]	6月19日～ 8月28日	黒漆塗最上胴
南相馬味めぐり 夏の食べ物編 [川崎]	6月27日～ 9月15日	郷土料理レプリカ(ホッキご飯、カツオの焼き漬 け、しそ巻きとせつぶく南蛮、味噌おにぎり、キ ノコとナスのじんだ和え、きゅうりの味噌汁)
コロナ禍のもと行われた令和2年 度“省略野馬追”(企画展「受け継 がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」 導入) [二上]	7月1日～ 8月29日	令和2年度野馬追行事パネル、映像作品「相馬野 馬追2020」、子どもたちが描いた野馬追の絵(幟 旗)

テーマ [担当学芸員]	展示期間	資料名
博物館実習生による甲冑展示 [二上]	8月29日～ 9月23日	黒漆塗五枚胴具足
南相馬味めぐり 秋の食べ物編 [川崎]	令和3年9月16日～ 12月2日	郷土料理レプリカ（干し柿、イナゴの佃煮、栗ご飯、菊の酢の物、イチジク煮、ユズの砂糖漬け）
猛毒キノコ「カエンタケ」[仲川]	9月24日～ 11月5日	カエンタケ標本と写真パネル、毒性に関する資料情報
写真でふりかえる原町無線塔100年 [二上]	10月15日～ 12月28日	原町無線塔写真パネル25点
中村藩の軍制改革と南蛮流砲術の稽古 [二上]	11月6日～ 12月28日	関流（南蛮流）火縄銃
新しい年へ 冬至と正月 [川崎]	12月3日～ 令和4年1月4日	郷土料理レプリカ（「冬至と食べ物」冬至かぼちゃ、ユズの砂糖漬、「年取り魚」子持ちカレイの煮付け、塩引き）
正月に神楽と凧 [二本松]	令和4年1月4日～ 1月16日	鹿島区北屋形の神楽（頭：複製 神楽幕：実物資料 ビデオ：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト制作）、中国・四国地方の凧・凧揚げを題材にした浮世絵・凧揚げ風景写真
正月料理イロイロ [川崎]	1月5日～ 1月16日	郷土料理レプリカ（煮しめ、いかにんじん、豆敷の子、干し柿の大根巻き、黒豆煮、あんこ餅、納豆餅、アカアカ餅、豆腐餅、大根おろし餅）
南相馬味めぐり 早春編 [川崎]	2月22日～ 3月25日	郷土料理レプリカ（ハマボウフウの天ぷら、コウナゴの天ぷら、生青海苔の酢の物、アイナメのたたき、アサツキの酢味噌和え）
雛祭り [二本松]	2月22日～ 3月31日	享保雛
文化庁選定「食文化ミュージアム」に南相馬市博物館が認定されました！ [川崎]	3月26日～	新聞記事紹介パネル、ベンケイ（レプリカ）、ふくしまイノベントウ



エントランスホール展示「カヤネズミ」（生体展示）



エントランスホール展示「文化庁選定「食文化ミュージアム」に南相馬市博物館が認定されました！」

## ① 特別展示「鷺内遺跡 3000年前のクルミかご」

[担 当] 文化財係

[期 間] 令和3年5月15日～6月13日 26日間

[観覧者数] 642人（一般565人、高校生2人、小・中学生75人）

[会 場] 特別展示室

[内 容] 平成30年、南相馬市鹿島区の鷺内遺跡の発掘調査によって、縄文時代のクルミが大量に詰まったかごが発見され話題となった。この貴重な「クルミかご」の保存処理が完了したため、初の一般公開の機会として開催。

[展示資料] \*すべて当市教育委員会所蔵

No.	資料名	出土地点・時代・作者等
1	コナラ	鹿島区 鷺内遺跡 縄文時代後晩期
2	ナラガンワ	鹿島区 鷺内遺跡 縄文時代後晩期
3	クヌギ	鹿島区 鷺内遺跡 縄文時代後晩期
4	トチノキ	鹿島区 鷺内遺跡 縄文時代後晩期
5	オニグルミ	鹿島区 鷺内遺跡 縄文時代後晩期
6	煮炊きにする土器	鹿島区 中才遺跡 縄文時代晩期
7	文様のある土器	鹿島区 中才遺跡 縄文時代後・晩期
8	製塩土器 口縁部	鹿島区 中才遺跡 縄文時代晩期
9	製塩土器 底部	鹿島区 中才遺跡 縄文時代晩期
10	中才遺跡出土状況再現（製塩土器片・石鏃・石鏃未成品・すり石・打製石斧・石棒）	鹿島区 中才遺跡 縄文時代晩期
11	竹細工製品（竹行李、びく、背負いかご、味噌漉しザル、米揚げザル、カゴザル、茶碗ザル、ドジョウドウ等）	近現代
12	ザル（1号編組製品）	鹿島区 鷺内遺跡（SK10）縄文時代晩期
13	カゴ（11号編組製品）	鹿島区 鷺内遺跡（SK12）縄文時代晩期
14	カゴ（6号編組製品）	鹿島区 鷺内遺跡（SK12）縄文時代晩期
15	クルミかご（4号編組製品）	鹿島区 鷺内遺跡（SK10）縄文時代晩期
16	クルミかご復元品	復元制作：鈴木俊策氏（那須篠工芸研究会）
17	三千年未来へのメッセージ（パネル）	若松丈太郎『夷俘の反逆』（2021）より



特別展示「鷺内遺跡 3000年前のクルミかご」の一部

②「朝倉悠三 震災絵日記」－東日本大震災から10年をふりかえる－

[担当学芸員] 二本松文雄・樋口晴菜

[期 間] 令和3年9月3日～10月3日 29日間

[観覧者数] 956人（一般655人、高校生5人、小・中学生296人）

[会 場] エントランスホール

[内 容] 平成23年3月11日、画家・朝倉悠三は東日本大震災に遭い、原発事故による避難から帰宅した後は、数百棟もの仮設住宅が立ち並んでいく自宅周辺の変化や、そこに暮らす被災者の生活を毎日目の当たりにし、自らの経験と被災者に対する眼差しから、自然の脅威、被災者の悲哀、政治不信、未来への希望を強く感じた。

「震災絵日記」は彼の感性を絵と言葉で伝えた風刺画作品群で、『福島民報』に平成23年5月1日から31年3月31日まで410点が掲載され、福島県民から多くの共感を得た。さらに、風刺画研

究者からも注目を浴び、平成31年3月にはオーストラリアのメルボルン工科大学で展示会が開催され、海外からも大きな反響があった。今回の展示では、『福島民報』に掲載された朝倉悠三の絵と言葉から、東日本大震災後10年をふりかえるものとした。



「朝倉悠三 震災絵日記」－震災から10年をふりかえる－

[展示作品] \*複製作品 (A4判)

No.	新聞掲載日	「震災絵日記」タイトル
1	平成23年5月1日	6号国道に横たわる漁船(南相馬市鹿島区)
2	5月29日	檻から出て暴れることは絶対ありません!
3	6月26日	この子を守るには、どこに行けばいいの?
4	7月10日	今、ホットスポットの周辺では…
5	11月6日	原町高で授業再開。一体感とヤル気が強い絆に!
6	12月25日	旗振って迎えたい気分!常磐線原ノ町ー相馬間復活
7	平成24年2月12日	収束!安全!…言われるたびに増す不安
8	4月8日	ウーン、こんがらがってきちゃった～
9	5月6日	被災地から戻る災害支援車に連日エールを送る姉弟
10	9月9日	震災・原発事故を風化させるな!語り部50人誕生
11	10月28日	毎朝、腕組んで歩く老夫婦にホッと癒やされる
12	11月4日	農家が米と野菜を、漁師が魚を買う無念さ
13	平成25年3月24日	この年で…どの道行ったらいいんだべ?
14	4月14日	早く何とかして!いつまで続く汚染水流出
15	4月21日	大山鳴動ネズミー一匹で原発大ピンチ
16	5月19日	何事も無かったかのように…あっけらかんと
17	6月16日	日本一長距離な迂回路ー復旧工事急いで!
18	9月29日	ちゃんと状況分かってるの?
19	平成26年3月9日	あれから3年…明るい未来ってナニ?
20	4月6日	原発地下水ーやっぱり海へ…
21	5月4日	避難世帯5割が家族バラバラ。7割が体調不良
22	8月3日	福島県民の叫び
23	平成27年2月22日	避難区域はイノシシが住民になってしまった
24	9月27日	お彼岸で震災後の懐かしい再会が…
25	平成28年3月6日	都合の悪い事は隠しちゃう…。炉心溶融公表の遅れ
26	平成29年3月12日	震災後、一番勇気づけられた懐かしい言葉
27	12月3日	ここに来れば会える!「浪江十日市」地元で開催
28	平成30年8月5日	相馬野馬追完全復活～標葉郷、8年ぶり武者行列
29	令和元年3月10日	8年前、並んでもらったおにぎりを私は忘れない
30	3月31日	明日へ

#### (4) 野外展示

館外に本市に関連する資料の展示を行った。



C50型蒸気機関車

#### ① 蒸気機関車

[期 間]

平成11年8月26日から現在地に常設展示

[展示資料] 標準旅客用機関車

C50型103号機、テンダー

[資料内容] 昭和5年3月に製造。昭和20年

11月から常磐線平機関区に配備され、昭和45年4月に廃車となったもの。

#### ② 原町無線塔頭部

[期 間]

平成9年8月20日から現在地に常設展示

[展示資料]

磐城無線電信局原町送信所主塔頭部

[資料内容] 大正10年7月に開局した対米無線

局・磐城無線電信局原町送信所の主塔頭部。

副柱へワイヤーを張って巨大アンテナを形成するための滑車が付属する。

高さ201mの鉄筋コンクリート塔は、開局当時“東洋一”と称され、大正12年の関東大震災の惨状をサンフランシスコに打電し各国からの援助を導いた。昭和57年に解体され、頭部のみ現存する。



磐城無線電信局原町送信所主塔頭部



パンタネリウム

#### ③ パンタネリウム

[期 間]

平成30年30月29日～令和3年3月31日

[展示資料] パンタネリウム

[資料内容] 平成29年度福島県事業「アートによる新生ふくしま交流事業」の一環として、アーティスト君平氏が制作した鉄製オブジェ。鹿島区の小山田層（中生代白亜紀初期）の地層から産出する微化石「パンタネリウム」を表現した作品。



(5) かしま交流センター展示

鹿島区に関連する資料の展示を行った。

[担当学芸員] 堀 耕平

[期 間] 平成31年 4 月 1 日～

[展示資料] 縄文土器、解説パネル

[資料内容] 一杯清水遺跡出土の注口土器（縄文晩期）



一杯清水遺跡出土の注口土器

(6) おだか交流センター展示

小高区に関連する資料の展示を行った。

[担当学芸員] 二本松文雄

[期 間] 令和 2 年12月16日～

[展示資料] 大正 8 年福島県小高町案内図、綿屋呉服店写真、綿屋呉服店看板、綿屋呉服店包装紙、綿屋創業88周年記念手拭い

[資料内容] 現在のおだか交流センターにあった、明治 4 年創業の呉服店「綿屋」に関連する資料



綿屋創業88周年記念手拭い

3. 資料収集管理事業

(1) 収蔵資料数 (令和 4 年 3 月31日現在)

\* ( )内は寄託件数

区分	実物	標本	模型等	合計	令和 3 年度増減分 内訳			
					寄贈	購入	寄託	返却
人文科学資料	美術	745( 3)		748( 3)	3			
	考古	7,707(2,477)		10,104(2,477)	1			
	民俗	7,118( 252)		7,381( 252)	85	6	1	- 2
	歴史	11,346(5,230)		16,629(5,230)	266		2	
	図書	11,537		11,537	-61			
	写真	1,330		1,330				
	その他	548		548				
計	40,331(7,962)		64(7)	48,357(7,962)	294	6	3	- 2
自然科学資料	動物	640( 40)	678	1,318( 40)	1			
	植物	69	54	123				
	地学	11( 2)		13( 2)				
	理化学							
	天文							
	図書	418		418	13			
	写真	116		116				
	その他	63		63				
計	1,317( 42)	732	16	2,107( 42)	14			
合計	41,648(7,997)	732	80(7)	50,464(8,004)	308	6	3	- 2

## (2) 資料の貸出し

## ① 博物館資料

資料名／点数	貸出先	貸出期間	展覧会・イベント名
神旗レプリカ／3点	市観光交流課	令和3年10月5日 ～11日	「ろぼいち」(ワールドロボットサミット併催イベント[10/8～10/10])での南相馬市紹介ブースにて使用のため
鳥類剥製(トビ、ノスリ、ガビチョウ)／3点	日本野鳥の会南相馬	令和3年7月4日	市民探鳥会(第2回)鳥類剥製展示協力
クルミカゴ／3点	栃木県立博物館	令和3年9月14日 ～12月10日	第131回企画展「木と木の実の考古学」展示資料のため
鳥類剥製(オオハクチョウ)／1点	日本野鳥の会南相馬	令和3年12月12日	市民探鳥会(第3回)鳥類剥製展示協力
南相馬市産アンモナイト化石／45点	福島県立博物館	令和4年3月20日 ～7月25日	令和4年度春期企画展「アンモナイト合戦」における展示資料および、広報物・図録掲載用写真撮影のため

## ② 写真資料

24件・106点

## 4. 調査研究事業

## (1) 『研究紀要』の制作

学芸員の調査研究成果を掲載する学術雑誌の制作。東日本大震災後休止していた事業を再開。電子版として発行し(令和4年3月31日付)、当館公式ウェブサイトで公開した。令和4年度に印刷製本を予定。

『研究紀要 第13号』

- 「福島県浜通り地方における古墳時代の動向(その1)」 荒 淑人
- 「泉十一面観音堂に伝わる大般若経～その伝来と写経について～」 森 晃洋
- 「南相馬市の災害慰霊碑・伝承碑」ー後世へのメッセージー 二本松文雄

## (2) 調査研究テーマと内容

## 【共同テーマ】

東日本大震災にかかる資料・情報収集(継続)[担当学芸員:全員]

東日本大震災を歴史的事象として後世に伝えること(将来の常設展示化、企画展等)を目的とした、東日本大震災に係る資料や情報の収集

- ・市内の災害に関する慰霊碑・伝承碑の調査(研究紀要で発表)
- ・震災時の相馬野馬追に関する資料や証言の収集(企画展で紹介)
- ・小高区大富地区住民の証言の収集

## 【分野別テーマ】

## ① 東日本大震災(災害)と野馬追(継続)[担当学芸員:二上文彦]

東京電力(株)第一原子力発電所事故により、一時中断していた旧警戒区域の野馬追行事を中心とした記録の収集のほか、野馬追関係者3人から、震災10年目をふりかえるインタビューを行った。成果は企画展「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」で紹介

## ② 野馬追絵画の調査(継続)[担当学芸員:二上文彦]

平成29年度に当館で購入した『野馬追備列絵巻』を中心に、近年発見された野馬追図屏風等に

についての調査。

『野馬追備列絵巻』に描かれた9代藩主相馬祥胤の子息「亀丸」「尚之助」から、2人が同時に野馬追に出馬した年代を検討、享和2年(1802)である資料(『熊川兵庫日記』)を確認し、同年の野馬追のようすを描いたものであることをおおよそ確定できた。

③ 東日本大震災後の生物(小高の自然)調査(継続)[担当学芸員:仲川邦広]

東日本大震災後の津波被災地のなかでも東京電力(株)福島第一原子力発電所から半径20キロメートル圏内の動植物について、環境省、国内の研究者、大学と連携し、情報交換を行いながら生物相(変化)の継続した調査を行った。

令和3年度においては福島大学主催オンラインシンポジウム「震災被災地の自然・暮らしと復興Ⅱ」を南相馬市教育委員会の共催にて開催し、調査成果の一部を発表した。

また、「小高の自然」調査事業にて化石、地質、動植物などの調査を行い、昆虫、化石・岩石の標本の収集を継続した。

④ 津波跡地の植物相調査と標本の収集(継続)[担当学芸員:仲川邦広]

津波の跡地に生じた湿地や水路には新たな生態系が広がっており、なかには絶滅危惧種であるツツイトモ(震災前には福島県で未報告)、リュウノヒゲモ(福島県絶滅危惧ⅠA類)などが確認されている。これらの植物の存在の証拠となる植物標本の収集・作製を継続して進めている。

⑤ 南相馬市内の木の実の放射能濃度調査(継続)[担当学芸員:仲川邦広]

学校や家庭において教育目的で扱われることの多い植物種(ドングリなど)の放射能濃度および空間線量を市内各地で調査した。今後は収集したデータを解析し、公開していく。

⑥ 文化財レスキュー活動(継続)[担当学芸員:全員]

東日本大震災や福島県沖地震の影響で被災家屋の主屋や蔵、納屋などの解体が続いている。それに伴い、多くの文献資料や民俗資料(民具)が大量に廃棄されていたため、被災文化財のレスキュー活動と資料整理を行った。

⑦ 「浜下り」の映像記録制作(祭礼の年に随時継続)[担当学芸員:二本松文雄]

当館ではこれまで「日吉神社の浜下り」「男山八幡神社のお浜下り」「鶏足神社の浜下り」「南相馬の子供の祭り」(小沢と下江井の天神様のお浜下り)など、市内の浜下り行事の映像記録を制作し、館内および各地区で上映会を開催した。

令和2年1月17日に「浜通りのお浜下り」が国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財選択への文化審議会の答申を受けて、令和3年4月に鹿島区烏崎地区で開催された「津神社のお浜下り」、新型コロナウイルスの影響で1年延期し令和4年3月末に鹿島区海老地区で開催された「虚空蔵尊の浜下り」の映像記録を作成した。今後、記録として保存し、博物館のビデオコーナー等で上映公開する。

⑧ 相双地方の焼き物調査(継続)[担当学芸員:堀 耕平]

近世に開窯した大堀相馬焼は、中村藩の外貨獲得に貢献したほか、東北地方から関東地方まで広く流通し、特に東北地方の各窯に影響を与えたといわれている。同窯の製品や作品の調査を行い、その優れた作品、技術等を紹介する展示につなげるための調査を行った。

⑨ 歴史資料の整理と調査(新規)[担当学芸員:森 晃洋]

資料の所蔵者の世代交代が進んでいることもあり、多くの資料が博物館に寄贈・寄託されているが、未整理のままとなっているものが多い。当地方の代表的な古文書群である石神の富田家資料などの整理と調査を行い、これまで公開されていない資料を公開。また、敷居が高いと思われる古文書の魅力をさまざまな世代に向けて分かりやすく発信した。

- ・博物館講座「古文書をよむ 鎌倉時代の相馬氏」(講師:岡田清一氏)を開催。
- ・企画展「中村藩と近代のはじまり」を開催。

⑩ 戦争体験者からの聞き取り調査（新規）[担当学芸員：森 晃洋]

終戦から70年以上が経過し、戦争の体験者は急速に少なくなり、戦争の記憶は薄れつつある。体験者の記憶を記録するための聞き取り調査を行った。企画展資料借用の際に1人から話をうかがった。

(3) 各学芸員の研究活動

① 寄稿

樋口晴菜「いきいきミュージアム～エデュケーションの視点から～」(令和4年8月 文化庁WEB広報誌「ぶんかる」No.057)

② 相双エリア情報発信誌『info (いんぷお)』コラム「sousou 今昔話」

(株)いんぷお(南相馬市鹿島区)が発行するフリーペーパー『info』における学芸員連載コラム。偶数月連載。

発行部数/10,000部

配布地域/相双地域および宮城県仙南地域

掲載号数	タイトル	担当学芸員
令和3年4月号	ガニマキは春の味	川崎
6月号	先人の工夫が生きる「カツオの焼き漬け」	川崎
8月号	夏休み、不思議なものに出会ったら…	仲川
10月号	化石の宝庫・相双地方	二上
12月号	史跡のマチへようこそ	荒
令和4年2月号	手長足長ー相馬地方の巨人伝説ー	二本松

③ 他団体による委嘱等

堀 耕平 : 福島県博物館連絡協議会監事、ライフミュージアムネットワーク委員、地域創生の核となる博物館実行委員会会長

二本松文雄 : 福島県民俗学会幹事

二上 文彦 : 相馬野馬追保存専門委員会委員

仲川 邦広 : 福島県生物多様性推進協議会委員、福島県野生動植物保護アドバイザー、福島県植物研究会会計、地域創生の核となる博物館実行委員会委員

森 晃洋 : 福島県史学会相双地区幹事

5. 教育普及事業

(1) 講座・体験学習

学芸員および外部講師を招いた講座・体験学習等の実施。

① 講座 実施回数：11回 参加人数：296人

開催日	内容(タイトル)	講師名[担当学芸員]	参加人数
令和3年 5月15日	古文書をよむ「鎌倉時代の相馬氏① 源頼朝と相馬師常」	岡田清一氏(東北福祉大学大学院嘱託教授)[森]	26
8月21日	古文書をよむ「鎌倉時代の相馬氏② 義胤・胤綱と執権政治」	岡田清一氏(東北福祉大学大学院嘱託教授)[森]	26
8月22日	野馬追の旗について	二上裕嗣氏[二上]	27
令和3年 9月18日	古文書をよむ「鎌倉時代の相馬氏③ 相馬胤村の所領配分」	岡田清一氏(東北福祉大学大学院嘱託教授)[森]	29

開催日	内容（タイトル）	講師名〔担当学芸員〕	参加人数
令和3年 10月10日	蓄音機コンサート	佐藤晴美氏〔二本松〕	19
11月20日	古文書をよむ「鎌倉時代の相馬氏④ 所領を巡る一族の争い」	岡田清一氏（東北福祉大学大学院嘱託 教授）〔森〕	33
12月11日	企画展講演「中村藩と近代のはじまり」	森晃洋学芸員	36
令和4年 3月12日	古文書をよむ「鎌倉時代の相馬氏⑤ 相馬氏の奥州移住と得宗専制」	岡田清一氏（東北福祉大学大学院嘱託 教授）〔森〕	32
3月21日	猫の浮世絵を愉しむ	則武和広氏（猫浮世絵愛好家）〔堀〕	17
3月26日	古文書をよむ「鎌倉時代の相馬氏⑥ 幕府滅亡前後の相馬氏」	岡田清一氏（東北福祉大学大学院嘱託 教授）〔森〕	30
3月27日	江戸・猫の魅力と漫画の楽しみ方	山村東氏（漫画家）〔堀〕	21

## ② 体験学習 実施回数：14回 参加人数：171人

開催日	内容（タイトル）	講師名〔担当学芸員〕	参加人数
令和3年 4月29日	東ヶ丘公園で春の植物を観察しよう	仲川邦広学芸員	14
5月3日	香りの宝石せっけんを作ろう	小林香代子氏（ライブラ香りの学校・ 福島校）	15
8月1日	トンボDAY 第1部「トンボの観察会」	三田村敏正氏（福島虫の会）〔仲川〕	17
	トンボDAY 第2部「水彩、コラージュ を楽しもう」「空気に絵を描こう」	小原風子氏（アーティスト）〔樋口〕	13
8月8日	勾玉を作ろう！	荒淑人学芸員	11
8月9日	葉っぱのノート作り	仲川邦広学芸員	3
9月12日	化石のレプリカを作ろう！	八巻安夫氏・荒好氏（相馬中村層群 研究会）〔二上〕	12
10月3日	秋のキノコ観察	本多隆氏・富田武子氏・橋本和昭氏 （福島きのこの会）〔仲川〕	16
11月7日	化石をさがそう	平宗雄氏（南相馬市博物館収集展示委 員）、八巻安夫氏（相馬中村層群研 究会）〔二上〕	20
12月4日	冬の野鳥を観察しよう	遠藤政弘氏、佐藤慎一氏、仲野内尚氏 （日本野鳥の会南相馬）〔仲川〕	12
12月25日	正月飾り作り	高田求幸氏（南相馬市博物館資料調査 協力員）〔二本松〕	9
令和4年 3月13日	勾玉を作ろう！	荒淑人学芸員	14
3月20日	プラスチック標本でペンダントをつくろう	樋口晴菜学芸員	4
3月27日	化石をさがそう	平宗雄氏（南相馬市博物館収集展示委 員）、八巻安夫氏（相馬中村層群研 究会）〔二上〕	11

## ③ その他（講演会、バスツアー） 実施回数：2回 参加人数：23人

開催日	内容（タイトル）	講師名〔担当学芸員〕	参加人数
令和3年 5月8日	バスツアー「ブラハラマチ」	二上文彦学芸員	8
6月13日	講演会「歴史としての東日本大震災 口碑伝承をおろそかにするなかれ」	岩本由輝氏〔二本松〕	15



バスツアー「ブラハラマチ」(令和3年5月8日)

## (2) 各機関との連携

## ① 学校との連携

ア、学校見学 実施回数：18回 参加人数：609人（うち教師・引率者55人）

来館日	学校名	学年	参加人数		内 容 [担当学芸員]
			児童・生徒	引率	
令和3年 5月18日	相馬市立磯部小学校	6	7	2	社会科 歴史学習 [森]
6月1日	相馬市立飯豊小学校	3	41	3	総合的な学習「野馬追のひみつをみつけよう」[二上]
6月15日	鹿島小学校	6	55	4	総合的な学習「南相馬の歴史を調べよう」 [森]
6月30日	浪江町立なみえ創成 中学校	1・2	8	2	社会科「野馬追の歴史・報徳仕法」[森]
9月9日	原町第二中学校	1	16	1	総合学習（地域における博物館施設の役割） [荒]
9月16日	石神中学校	1	32	3	総合学習（調べ学習）[二上・森]
9月17日	相馬市立中村第二小 学校	6	55	4	地域の歴史への理解を深めるため（野馬追・古代） [二上・荒]
9月24日	桑折町立睦合小学校	5	11	2	総合学習(桑折町と南相馬の生活文化の比較)
9月29日	相馬市立大野小学校	1～4	106	6	社会科、総合学習（野馬追）[二上]
10月1日	相馬市立八幡小学校	3・4	35	4	遠足による見学 [二上]
10月7日	相馬市立飯豊小学校	5	39	3	理科（相馬地方の自然）、社会科（野馬追） [仲川・二上]
10月21日	浪江町立なみえ創成 小学校	3・4	10	5	地域の伝統文化と人びとの暮らしの移り 変わり（相馬野馬追、古い道具と昔の暮らし） [二上・二本松]
10月22日	浪江町立なみえ創成 小学校	1・2	8	4	生活科（公園内の植物や木の実・キノコな どの講話、観察、木の実を採集して楽しむ） [仲川]
11月18日	大甕小学校	4	17	2	総合学習（野馬追、古墳）[二上・荒]

来館日	学校名	学年	参加人数		内 容 [担当学芸員]
			児童・生徒	引率	
令和3年 11月24日	太田小学校	3・4	18	2	社会科見学(野馬追、遺跡、昔の道具と暮らし) [二上・二本松]
令和4年 2月8日	鹿島小学校	3	39	3	古い道具と昔の暮らし [二本松]
3月1日	上真野小学校	3	7	2	古い道具と昔の暮らし [二本松]
3月8日	原町第一小学校	3	50	3	古い道具と昔の暮らし [二本松]

イ、出前講座(学校関係) 実施回数：10回 参加人数：444人(うち教師40人)

実施日	学校名	学年	参加人数		内 容 [担当学芸員]
			児童・生徒	教師	
令和3年 6月15日	鹿島小学校	6	55	4	史跡巡り(桜井古墳) [荒]
6月17日	原町第二中学校	1	49	6	報徳仕法とは [森]
6月29日	原町第三中学校	1	26	4	副読本でわかる二宮尊徳・富田高慶の教え [森]
6月30日	上真野小学校	4	12	2	報徳仕法とは [森]
7月8日	原町第三中学校	1	26	4	原町の移り変わり [森]
7月21日	福島県立テクノアカデミー浜	1・2	85	6	相馬野馬追の歴史と文化 [二上]
9月15日	小高中学校	1	19	3	副読本でわかる二宮尊徳・富田高慶の教え [森]
10月15日	鹿島中学校	1	98	6	報徳仕法とは [森]
10月22日	浪江町立なみえ創成小学校	1・2	8	4	校外学習・生活科「こうえんであきをさがそう」 [仲川]
12月17日	原町第二小学校	4	26	1	報徳仕法とは(講座・史跡めぐり)社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」 [森]

ウ、中学生職場体験 実施回数：3回 参加人数：9人 [担当学芸員 全員]

実施期間	学校名	学年	参加人数
令和3年 9月7・8日	原町第一中学校	2	4
9月9・10日	原町第二中学校	2	4
9月22日	原町第三中学校	2	1

エ、高校生インターンシップ 1回 参加人数：1人 [担当学芸員 全員]

実施期間	学校名	学年	参加人数
令和3年 11月17～19日	福島県立相馬農業高校	2	1

オ、大学生博物館実習 実施回数：1回 参加人数：2人 [担当学芸員 全員]

実施期間	大学名	学部学科	学年	参加人数
令和3年 8月24～29日	昭和女子大学	人間文化学部歴史文化学科	4	1
	宮城学院女子大学	学芸学部日本文学科	3	1

② 生涯学習関係機関等との連携

ア. 講師派遣（出前講座等） 24回 参加人数：900人

実施日	主催	内容 [担当学芸員] *はオンライン開催	参加人数
令和3年 4月6日	市役所総務課	新採用職員・新規派遣職員研修「知っておきたい南相馬の歴史」[二上]	69
4月24日	鹿島文化財愛好会	苦難の時代の野馬追 [二上]	25
5月7日	市教育委員会教育総務課	新採用教職員研修「知っておきたい南相馬の歴史」[二上]	15
6月4日	一般社団法人南相馬観光協会	野馬追の歴史と文化 [二上]	7
6月16日	駅前サロン	世界をつないだ白亜の塔 原町無線塔 [二上]	15
6月26日	原町生涯学習センター	第1回こども探検隊事業「ほたるの観察会」[仲川]	24
7月4日	NPO法人相馬救援隊	第2回U-12相馬野馬追アカデミーキャンプ [二上]	26
7月29日	国際NGOオペレーション・プレッシング・ジャパン	東ヶ丘公園の昆虫観察 [仲川]	24
8月3日	国際NGOオペレーション・プレッシング・ジャパン	水無川の生き物観察 [仲川]	23
8月8日	下太田農地・水環境保全会	牛川の生き物観察 [仲川・樋口]	9
8月11日	NPO法人きっかけ食堂	*地元民が語る！ 東北の夏祭り特集 [二上]	22
8月23日	福島大学	博物館実習にあたっての事前学習 [二上]	2
8月27日	原町生涯学習センター	さわやか学級「蓄音機コンサート」[二本松]	10
8月28日	浪江町教育委員会	地域ふれあいチャレンジ 報徳仕法講座「中村藩の報徳仕法」[森]	20
8月28日	小高やどりぎ	川の生きもの観察 [仲川]	23
9月21日	ひばりいきいきサロン	蓄音機コンサート [二本松]	15
10月6日	上北高平第一行政区 花みずきサロン	蓄音機コンサート [二本松]	7
10月7日	太田生涯学習センター	第3回女性学級・第1回高齢者学級合同開催「報徳講座 復興を支えた報徳仕法と移民政策の痕跡を辿る」[森]	14
10月23日	万葉植物園に親しむ会	古代の行政区画の班田収受等の解説 [森]	19
10月31日	相馬市中央公民館	相馬市子ども科学フェスティバル「化石レプリカ作り」[仲川・樋口]	382
12月7・8日	東日本旅客鉄道(株)水戸支社	大人の休日倶楽部趣味の会講座「相馬野馬追」を知る講座 ～騎馬武者が疾駆する戦国絵巻、受け継がれてきた歴史をひもとく～ [二上]	83
12月11日	としょかんのTOMO みなみ そうま	私たちの「まち」と明治維新について [森]	40
12月28日	NPO法人トイボックス	勾玉作り [荒]	14
令和4年 2月28日	石神生涯学習センター	石神村史について [森]	12



出前講座 原町生涯学習センター主催 第1回こども探検隊事業「ほたるの観察会」(令和3年6月26日)



出前講座 ひばりいきいきサロン主催「蓄音機コンサート」(令和3年9月21日)



イ. 発表・シンポジウム等 実施回数：3回 参加人数：262人

開催日	主催	内容 [担当学芸員]	*はオンライン開催	参加人数
令和3年 5月21日	ブリティッシュ・コロンビア 大学・人類学博物館	*特別展「記憶のための未来—東日本大震災後の アートと暮らし」対談 [二上]		40
8月26日	福島県博物館連絡協議会	*シンポジウム「新しい生活様式下のミュージ アム体験活動」事例発表「コロナ状況下での ミュージアム体験—南相馬市博物館『おうちで 博物館』の事例について—」 [川崎]		12
11月6日	福島民友新聞社、漢字文化振 興協会、徳川記念財団	「歴史文化講演会in南相馬～報徳の教え」 パネルトーク「報徳仕法と二宮尊徳」 [森]		210

### (3) 地域を創生するミュージアム活用実行委員会事業

令和3年度文化庁・文化芸術振興費補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を活用して、当館が中核館となり、全国の博物館や地元の子ども育成団体と連携し実行委員会を組織し、「子育て世代とともにつくるミュージアム活用プロジェクト」事業を展開した。

#### ① 実行委員会構成団体

南相馬市博物館（会長および事務局）、ひとはく連携グループ・ルンルンプラザ（副会長）、さゆり幼稚園、兵庫県立人と自然の博物館、京都国立博物館、NPO法人南相馬こどものつばさ

#### ② 事業構成

ア. 市内幼稚園や保育所などに博物館学芸員が訪問する「おでかけみゅーじあむ」の実施

実施回数：14回 参加人数：園児366人、教諭47人、保護者38人

実施日	団体名など	対象	参加人数			体験プログラム [担当学芸員]
			園児	教諭	保護者	
令和3年 5月19日	さゆり幼稚園	年長	21	3	-	シャボン玉 [樋口・仲川・茂木]
6月8日	大甕幼稚園	年長～年少	62	5	9	浮くタネ [樋口・仲川・茂木]
6月10日	みなみそうまペン ギン国際幼児園	年長～年少	18	4	-	浮くタネ・飛ぶタネ [樋口・仲川・ 茂木]
6月11日	おだか認定こども 園	年長～年少	37	5	-	浮くタネ・飛ぶタネ [樋口・仲川・ 茂木]
6月18日	原町聖愛こども園	年長	15	1	-	飛ぶタネ・葉っぱコネクト [樋口・ 仲川]
8月12日	北町保育所	年長～年中	15	4	-	浮くタネ・飛ぶタネ [樋口・仲川・ 茂木]
9月2日	原町聖愛こども園	年長	15	1	-	浮くタネ・葉っぱコネクト [樋口・ 仲川]
10月8日	みなみそうまペン ギン国際幼児園	年長～年少	31	6	29	親子遠足（博物館シールラリー、シャ ボン玉） [樋口・仲川・茂木・二上]
10月20日	北町保育所	年長～年中	34	4	-	散歩、植物図鑑をつくろう [樋口・ 仲川]
令和3年 10月22日	さゆり幼稚園	年長	23	2	-	博物館見学シールラリー、浮くタ ネ [樋口・茂木]
11月2日	大甕幼稚園	年長	24	4	-	葉っぱコネクト [樋口・茂木]
11月5日	原町聖愛こども園	年長	20	2	-	東ヶ丘公園探索、ビンゴ [樋口・ 仲川]
11月9日	おだか認定こども 園	4～5歳クラ ス（混合）	33	4	-	大蛇伝説紙芝居、昔の道具、遊び [樋口・二本松]
令和4年 3月15日	原町聖愛こども園	年長	18	2	-	木を観察しよう・削ろう、ペンダ ント作り [樋口・仲川]

イ. 幼児・児童が参加する体験プログラム「キッズミュージアム」の開催

実施回数：2回 参加人数：子ども84人、保護者65人 [担当学芸員：全員]

実施日	団体名など	対象	参加人数		体験プログラム
			子ども	保護者	
令和3年 11月14日	地域を創生するミュージアム活用実行委員会	小学生以下	43	33	野馬追のミニ旗作り、木のペンダント作り、プラバンキーホルダー(アンモナイト)
12月19日	地域を創生するミュージアム活用実行委員会	小学生以下	41	32	クリスマスリース作り、野馬追のミニ旗作り、折り紙で馬とカブトを作ろう

ウ. 子育て世代が参加する「子育てミュージアム講座」の開催

実施回数：1回 参加人数：園児5人、保護者2人 [担当学芸員：全員]

実施日	団体名など	対象	参加人数		体験プログラム
			子ども	保護者	
令和4年 3月19日	地域を創生するミュージアム活用実行委員会	子育て中の保護者とその子ども	5	2	保護者は座談会、子どもたちには絵本の読み聞かせ、まゆだまコロコロ、シールラリー

\*ア～ウの合計参加人数：園児455人、教諭47人、保護者105人

## 6. その他の事業

### (1) 博物館理解・活用促進のための無料開館

日付(曜日)		入館者数
こどもの日	令和3年5月5日(日)	140
国際博物館の日	5月16日(日)	67
福島県民の日	8月21日(土)	86
	8月22日(日)	71
敬老の日	9月20日(月/祝)	77
文化の日・東北文化の日	11月3日(日/祝)	164
成人の日	令和4年1月10日(月/祝)	63
合計		668

### (2) 他館等との連携

#### ① 福島県博物館連絡協議会(理事として加盟)

ア. 総会 令和3年7月9日 会場/福島県立美術館

イ. シンポジウム 令和3年8月26日 会場/福島県文化財センター白河館  
「新しい生活様式下のミュージアム体験活動」  
当館学芸員4人参加(発表1人、聴講3人)

ウ. 理事会

令和3年7月9日 会場/福島県立美術館

令和4年3月23日 会場/郡山市立美術館

#### ② 他団体との共催事業

シンポジウム「震災被災地の自然・暮らしと復興2」(オンライン)

団体名：津波被災地プロジェクト

開催日：2月19日

参加者数：41人

## (3) レファレンス対応

381件 \* 7. 情報発信 (5) 記載分も含む

## (4) 文化財資料収蔵施設整備事業

本市の歴史、民俗、自然科学等の特徴を示す資料や美術工芸品および震災資料を適切に保存するための収蔵施設を整備するものである。令和3年度は、当館資料収集展示委員会の意見等を踏まえ、資料収集基本方針の検討を行った。施設は、既存施設の跡地利用として庁内協議を行ったが、施設の利活用方策が未決定であるため、進捗は足踏み状態である。

スケジュール／令和3年度 資料収集基本方針の策定、施設整備方針の決定

4年度 施設整備工事（改修）設計

5・6年度 施設整備工事（改修）

## (5) 収蔵品等展示交流事業

台湾南投県竹山鎮との文化交流推進のため、博物館資料の展示交流を行うものであるが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により直接渡航ができなかったため、杉並区役所を通じての情報交換にとどまった。

スケジュール／令和3年度 情報収集

4年度 打合せ、現地展示施設下見など事業構築作業

5年度 台湾南投県竹山鎮で展示

## 7. 情報発信

## (1) 広報

## ①「南相馬ミュージアム通信」

年3回、展示会や講座・体験学習などの情報を発信した。

Vol.44 令和3年7月1日発行

Vol.45 10月1日発行

Vol.46 令和4年1月15日発行

各28,000部

市内全戸配布、市外避難世帯への発送

## ②展示会ポスター・リーフレット

配布先：県内博物館、県内教育委員会、相馬地方各学校、公共施設、市内スーパー、市内旅館・ホテル、首都圏旅行者 など



ミュージアム通信Vol.44  
(令和3年7月1日発行)

種類	仕様・印刷数等
ポスター	企画展「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」 B2 300枚 企画展「中村藩と近代のはじまり」 B2 300枚 企画展「やってきました！ 猫展 浮世絵で見る人と猫の文化史」 B2 250枚
リーフレット	企画展「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」 A4 2,700部 企画展「中村藩と近代のはじまり」 A4 2,700部

(2) 南相馬市博物館ウェブサイト・SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）による発信

南相馬市公式ウェブサイト内の博物館サイトにて、展示や体験学習・講座などの催し物、来館案内などの各種情報、出版物の案内、学芸員による連載コラム（「ちょこっと☆みゅーじあむ」：毎月1日配信）などを発信している。

また、北海道博物館が運営する「おうちミュージアム」に参加し、自宅等で本市の歴史、文化、自然を楽しく知って学べる取り組みとして「おうちで博物館」の配信を開始した。令和4年3月末現在25件。

さらに、新たな取り組みとして、令和2年5月から博物館公式SNS（Facebook、Twitter、YouTube）の運用を開始し、相馬地方の歴史や自然、文化について紹介するとともに、当館の最新情報や展示・イベントのようすを発信している。市民はもとより、市外の感心層への効果的な発信の場として活用している。

当館サイト URL <https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/culture/museum/index.html>

Facebook URL <https://www.facebook.com/minamisomashihaku>

Twitter URL <https://twitter.com/MinamisomaMuse>

YouTube URL <https://www.youtube.com/channel/UC3-Z-OfKZn0VMwZorWRrJRg>

① ちょこっと☆みゅーじあむ

掲載年月日	テーマ	担当学芸員
令和3年4月1日	春の夜は〇〇の匂い？	仲川
5月1日	南相馬市の水辺の生き物たち	樋口
6月1日	よくある野馬追の質問「神旗争奪戦では何かいただけるんですか？」	二上
7月1日	「原町無線塔」デビューからちょうど100年	二上
8月1日	考古学はなぜ年代がわかるのか？	荒
9月1日	東ヶ丘公園の紅葉をさがそう！	仲川
10月1日	佐藤精明と戊辰戦争	森
11月1日	「中村藩」という名称	森
12月1日	「納豆ねせ」の日	川崎
令和4年1月1日	正月の行事 墨塗り	二本松
2月1日	寄生植物「ヤドリギ」を探そう！	仲川
3月1日	渋沢栄一・敬三と民具	二本松

② おうちで博物館

配信年月日	カテゴリ	テーマ	担当学芸員
令和3年 5月27日	まなぶ	鷺内遺跡 3000年前のクルミかご オンラインギャラリートーク①	川田（文化財係）
5月28日	まなぶ	鷺内遺跡 3000年前のクルミかご オンラインギャラリートーク②	川田（文化財係）
5月29日	まなぶ	鷺内遺跡 3000年前のクルミかご オンラインギャラリートーク③	川田（文化財係）
5月30日	まなぶ	鷺内遺跡 3000年前のクルミかご オンラインギャラリートーク④	川田（文化財係）
5月31日	まなぶ	鷺内遺跡 3000年前のクルミかご オンラインギャラリートーク⑤	川田（文化財係）
6月1日	まなぶ	鷺内遺跡 3000年前のクルミかご オンラインギャラリートーク⑥	川田（文化財係）
6月2日	まなぶ	鷺内遺跡 3000年前のクルミかご オンラインギャラリートーク⑦	川田（文化財係）
6月3日	まなぶ	鷺内遺跡 3000年前のクルミかご オンラインギャラリートーク⑧	川田（文化財係）
6月4日	まなぶ	鷺内遺跡 3000年前のクルミかご オンラインギャラリートーク⑨	川田（文化財係）
6月5日	まなぶ	鷺内遺跡 3000年前のクルミかご オンラインギャラリートーク⑩	川田（文化財係）

## ③ YouTube

配信年月日	テーマ	担当学芸員
令和3年4月23日	★福島県郷土料理★ホッキご飯の作り方	川崎・樋口
5月5日	★福島県郷土料理★じゃがいもの味噌炒めの作り方	川崎・樋口
令和4年3月4日	★福島県郷土料理★カツオの焼き漬けの作り方	川崎・樋口
5月20日	とある南相馬市の馬たちの一日 予防注射・お手入れ編	樋口
5月27日	とある南相馬市の馬たちの一日 散歩編	樋口
10月17日	国史跡「浦尻貝塚」の貝層はぎ取り作業（タイムラプス版）	荒
	国史跡「浦尻貝塚」の貝層はぎ取り作業に密着してみた	荒

## (3) 『広報みなみそうま』コラム「おしえて博物館」

南相馬市広報紙『広報みなみそうま』における学芸員連載コラム。毎月掲載。

号数	テーマ	担当学芸員
令和3年4月号	春の夜は〇〇の匂い？	仲川
5月号	自然体験、水辺の生態系を知ろう！	樋口
6月号	今から10年前の野馬追	二上
7月号	無線塔デビュー100年	二上
8月号	野馬たちはどんな花を見たか？	仲川
9月号	石庖丁と稲作文化	荒
10月号	中村藩の戊辰戦争	森
11月号	廃藩置県と中村藩	森
12月号	桜井古墳群出土青銅鏡―常設展示資料紹介―	荒
令和4年1月号	小正月行事「墨塗り」	二本松
2月号	寄生植物「ヤドリギ」を探そう！	仲川
3月号	渋沢栄一の孫 敬三と民具	二本松

## (4) 記事・放映

新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる記事・放映

掲載年月日等	メディア種別	[番組名]	記事表題・概要	担当学芸員
令和3年 4月12日付	毎日新聞（東京夕刊）		それぞれの3.11 東日本大震災10年／9 福島県内、三つの「博物館」 人と人結び、次世代へ	二上
5月16日	福島民報		鷲内遺跡出土 クルミ入り籠一般公開 6月13日まで南相馬市博物館	荒
5月17日	福島民友新聞		縄文生活に思い 南相馬・鷲内遺跡3000年前のクルミ籠 特別展示	荒
6月24日発売 (2021年8月号)	雑誌『LE VOLANT』		ニッポンの匂いを見に行こう。 第30回・相馬野馬追	二上
7月3日付	福島民友新聞		「相馬野馬追」継承、歴史たどる 7月3日から南相馬で企画展	二上
7月3日付	福島民報		「相馬野馬追」に触れて 南相馬市博物館 3日から企画展	二上
7月3日付	読売新聞		振り返ろう野馬追の歴史 きょうから南相馬市博物館で企画展	二上

IV 令和3年度事業実施概要

掲載年月日等	メディア種別	[番組名] 記事表題・概要	担当学芸員
令和3年 7月3日放送	NHK福島放送局	[福島 NEWS WEB] 7月3日「相馬野馬追」震災からの歩み伝える展示会 南相馬市	二上
7月8日配信	相双ビューロー	伝統行事の今と昔「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」博物館企画展示	二上
7月15日付	朝日新聞	企画展『相馬野馬追』の継承へ 変遷追う	二上
7月23日付	福島民友新聞	相馬野馬追特集号 南相馬市博物館 受け継がれる伝統のチカラ相馬野馬追 継承の足跡たどる	二上
7月23日付	福島民報	相馬野馬追特集号 南相馬市博物館 来月1日から野馬追企画展	二上
7月20～22日 放送	ふくしまFM	[ここからモーニング] 企画展「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」の紹介	二上
7月22日放送	ラジオ福島	[もう一つの相馬野馬追] 旗の意味・役割などについて解説	二上
8月6～13日 放映	南相馬チャンネル	[南相馬市博物館企画展 受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追]	二上
8月15日付	福島民報	伝える見つめ直す 相双の食17 カツオの焼き漬(南相馬市) 食欲そそる家庭の味	川崎
9月3日付	福島民報	相馬野馬追絵画第一人者 故朝倉悠三さん きょう南相馬で開幕「震災絵日記」30作品展示 本誌で連載 復興の歩み伝える	二本松・樋口
9月3日付	朝日新聞	「朝倉悠三 震災絵日記」展 -東日本大震災から10年を振り返る-	二本松・樋口
9月6日付	福島民友新聞	被災者の苦悩、風刺画に 南相馬市博物館、故朝倉さんの作品展	二本松・樋口
9月12日付	毎日新聞	原発事故から10年半 風刺画に復興への希望 南相馬で作品展、故・朝倉さん「震災絵日記」30点	二本松・樋口
9月19日付	福島民友新聞	南相馬にカエンタケ、公園で発見 市『触らず通報を』	仲川
9月20日付	福島民報	毒キノコ注意を 南相馬の公園で発見(カエンタケ)	仲川
9月23日放映	福島テレビ	公園で見つかった有毒キノコ「カエンタケ」に注意! 食べると死に至る可能性も<福島県南相馬市>	仲川
9月25日付	読売新聞	震災後の苦悩絵日記で 南相馬出身・朝倉さん	二本松・樋口
10月15日～ 放映	南相馬チャンネル	カエンタケの注意喚起	仲川
10月28日付	福島民報	[タイム] 企画展「中村藩と近代のはじまり」の情報紹介	森
11月6日付	福島民友新聞	奥州中村藩近代への歩み紹介 来年1月まで、南相馬で企画展	森
11月23日付	福島民報	中村藩の激動焦点に 南相馬市博物館で企画展 文書、絵図など33点	森
11月28日付	朝日新聞	原町無線塔100年 雄姿しのぶ 南相馬市博物館 関東大震災を米へ	二上
12月1日付	福島民報	原町無線塔 活躍知って 開局100周年で展示会 写真や模型並ぶ	二上
12月1日放映	NHK福島放送局	「原町無線塔」運用開始100年で記念展 南相馬市博物館	二上

掲載年月日等	メディア種別	[番組名] 記事表題・概要	担当学芸員
令和3年 12月2日放映	NHK福島放送局	〔はまなかあいづ TODAY〕 相馬地方の化石を通して地域教育に携わる八巻安夫氏を紹介	仲川
12月5日付	福島民友新聞	原町無線塔の写真や資料並ぶ 南相馬市博物館で特別展示	二上
12月8日放映	NHK福島放送局	廃藩置県から150年 中村藩の歴史伝える企画展 南相馬	森
12月10日放映	NHK福島放送局	〔ココに福あり FMAP〕 相馬地方の化石を通して地域教育に携わる八巻安夫氏を紹介	仲川
12月25日掲載	ぐるっと相双（ポータルサイト）	「地域の魅力」南相馬市博物館取材ページ	二上
令和4年 1月15日放送	ラジオ福島	〔浜通り応援ラジオ番組 明日へ〕 近世から近代の中村藩を紹介	森
1月23日更新	集英社（公式サイト）	『馬の帝国』第20回「相馬野馬追（3）」野馬追の歴史（江戸時代～近代～現代の概要、過去の継承危機）、現状（組織形態、後継者の課題、女性出馬者）など	二上
3月1日放映	NHK福島放送局	NHK Eテレ [おむすびニッポン] 「福島 ホッキ飯おむすび」	川崎
3月3日	福島民友	相馬野馬追「指旗」ピンバッジ 騎馬武者イメージ、南相馬で販売	二上
3月4日付	福島民報	地域の食131件認定 文化庁「100年フード」（「食文化ミュージアム」には南相馬市博物館、飯豊とそばの里センターが選出）	川崎
3月11日付	毎日新聞	「相馬野馬追」女性騎馬武者 20、21歳 出場認める コロナ禍、今夏特例措置／福島	二上
3月11日放送	ラジオ福島	震災から11年―想いを紡いで、これからの未来へ	二上
3月12日付	福島民報	文化庁の「100年フード」認定 ベンケイ普及へ意気込み 相馬農校で報告会	川崎

#### （5）広告の掲載依頼・情報提供

- ① 南相馬市：広報みなみそうま、南相馬市公式ウェブサイト、南相馬市役所記者クラブ
- ② 福島民報社：情報ナビ「たいむ」
- ③ 福島県文化センター普及課：『ふくしま文化情報』
- ④ 日本博物館協会：『博物館研究』
- ⑤ ふくしま相双エリア情報発信誌『info』  
など

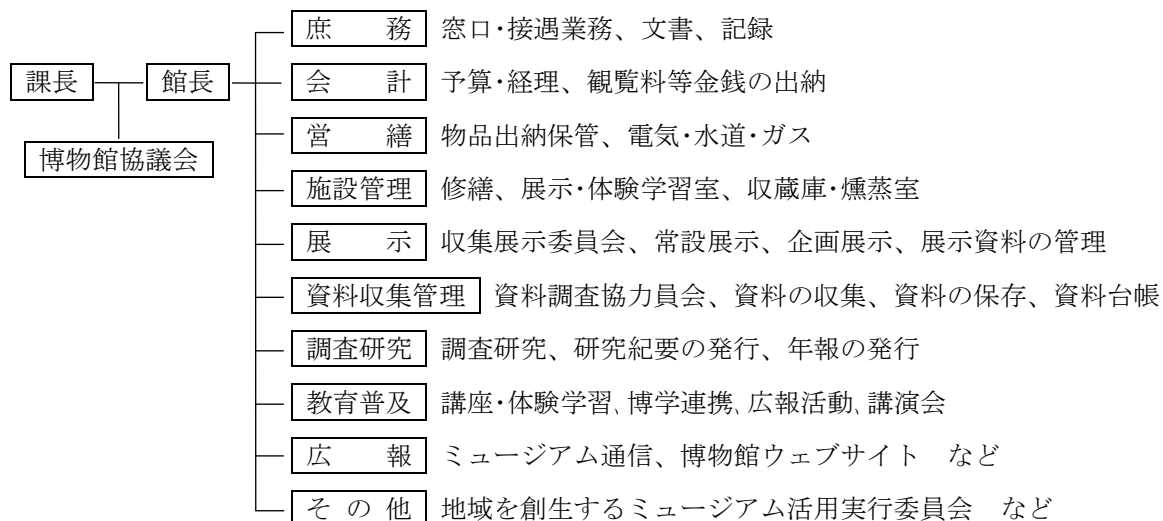
#### （6）出版物

- ① 年報（令和2年度実施状況）／博物館ホームページに公開
- ② 展示会関連
  - ・企画展パンフレット「中村藩と近代のはじまり」A4 8ページ 2,500部
  - ・企画展パンフレット「やってきました！ 猫展 浮世絵で見る人と猫の文化史」A4 12ページ 2,500部

## V 管理運営

### 1. 組織・職員

#### (1) 博物館組織



#### (2) 職員体制

職名	氏名	担当分野等	備考
文化財課長	鈴木 悦子		
博物館長	堀 耕平	考古	再任用
主査	二本松文雄	民俗	再任用
主査	二上 文彦	野馬追	
主査	荒 淑人	考古	
主任文化財主事	森 晃洋	歴史	
文化財主事	仲川 邦広	自然	
学芸員 (会計年度任用職員)	樋口 晴菜	教育普及・美術	
学芸員 (会計年度任用職員)	川崎 悠	民俗 (郷土料理)	
学芸員 (会計年度任用職員)	茂木千恵美	教育普及・歴史	
事務補助 (会計年度任用職員)	相良 春花		～令和4年3月
事務補助 (会計年度任用職員)	大勝 美香		～令和4年3月
事務補助 (会計年度任用職員)	和田はつみ		～令和4年1月
事務補助 (会計年度任用職員)	斎藤 稔		～令和4年3月
事務補助 (会計年度任用職員)	高野さとみ		令和4年3月～

### 2. 各委員会等

#### (1) 博物館協議会

委員名簿 (令和2年4月1日～4年3月31日)

役職名	氏名	所属
委員	渡部紀佐夫	南相馬市生涯学習推進委員会
委員	鎌田 文代	南相馬市私立幼稚園協会 (さゆり幼稚園園長)



役職名	氏名	所属
委員	高田 昌幸	小学校長会（南相馬市立太田小学校長）
委員	高橋 知宏	中学校長会（南相馬市立鹿島中学校長）
委員	山崎 雅弘	高等学校長会（福島県立原町高等学校長）
委員	比護 隆之	一般社団法人南相馬観光協会 *令和3年4月1日～
委員	岡田 清一	学識経験者（歴史）
委員	岩崎 真幸	学識経験者（民俗）
委員	藤原 妃敏	学識経験者（考古）
委員	竹谷陽二郎	学識経験者（自然）

## [会 議]

- ・第1回 令和3年5月20日（書面会議）  
報告事項／令和2年度南相馬市立博物館事業の実施状況について
- ・第2回 令和3年3月29日（書面会議）  
諮問／令和4年度南相馬市立博物館事業計画の承認について

## (2) 収集展示委員会

委員名簿（令和2年4月1日～4年3月31日）

役職	部会	氏名	職名等
部会長	自然	末永 福男	あぶくま生物同好会会員
委員		岡田 光生	アグリ・ウォッチャー・クラブ代表
委員		平 宗雄	日本洞窟学会会員
委員		吉田 豊	学識経験者
委員		湯沢 義秀	学識経験者
副委員長・部会長	考古	玉川 一郎	福島県考古学会会長
委員		小野田義和	福島県立原町高等学校教諭
委員		佐藤 悦夫	広野町立広野中学校教諭
委員		門馬眞一郎	学識経験者
委員長・部会長	歴史	二上 裕嗣	南相馬市文化財保護審議会会長
委員		藤原 一良	南相馬市文化財保護審議会委員
委員		猪狩 正志	南相馬市文化財保護審議会委員
委員		山本富士夫	南相馬市文化財保護審議会委員
部会長	民俗	岩崎 真幸	みちのく民俗文化研究所代表
委員		佐藤 一男	学識経験者
委員		小林 初夫	福島市立岡山小学校教諭
委員		丹野香須美	いわき市文化財保護審議会委員

## [会 議]

- ・第1回 令和3年8月17日（書面会議）  
報告事項／令和2年度南相馬市立博物館事業の実施状況について  
協議事項／令和3年度南相馬市博物館の事業計画について
- ・第2回 令和3年3月29日（書面会議）  
協議事項／令和4年度南相馬市立博物館事業計画について

- ・考古部会 令和3年12月4日  
報告事項／各種取り組みおよび調査研究について  
協議事項／令和4年度事業計画および調査研究について
- ・自然部会 令和3年12月26日  
報告事項／令和2年度企画展および資料収集・管理状況について  
協議事項／令和4年度事業計画について
- ・歴史部会 令和4年2月25日  
報告事項／展示事業・調査研究事業について  
協議事項／令和4年度事業計画および調査研究について
- ・民俗部会 令和4年3月4日（書面会議）  
報告事項／令和3年度企画展および資料収集・管理状況について  
協議事項／令和4年度事業計画について

### (3) 資料調査協力員

協力員名簿（令和2年4月1日～4年3月31日）

役職	地区	氏名	役職	地区	氏名
会長	原町	相良 征一	委員	小高	梅田 秀夫
副会長	小高	鈴木 敬徳	委員	原町	柚原 恒貞
副会長	鹿島	八巻 安夫	委員	原町	門馬 和雄
委員	原町	八巻 仁	委員	鹿島	小林 吉久
委員	原町	高田 求幸	委員	鹿島	石橋 三男
委員	原町	上原 義直			

[調査依頼]

- ・防空壕の所在地等に関する情報提供

## 3. 予算

令和3年度の予算執行状況

[歳入]

科目	当初予算額 (円)	決算額 (円)
博物館観覧料・使用料	1,109,000	988,850
博物館書籍頒布代	189,000	165,500
小高町史頒布代	57,000	66,000
鹿島町史頒布代	24,000	25,500
原町市史頒布代	92,000	144,500
東日本大震災記録誌頒布代	0	220,000
自動販売機設置電気料	16,000	18,691
東ヶ丘公園電気料	31,000	42,713
合計	1,518,000	1,671,754

[歳出]

事業名	当初予算額 (円)	決算額 (円)
博物館協議会委員費	225,000	91,000

事業名	当初予算額 (円)	決算額 (円)
美術品等購入選定委員会委員費	0	0
博物館管理運営事業	43,444,000	38,351,521
新型コロナウイルス感染症対策費	48,000	46,235
収蔵品等展示交流事業	170,000	0
博物館企画展示事業	1,193,000	1,015,552
博物館学芸調査事業	1,795,000	1,560,675
博物館体験学習・講座事業	777,000	490,732
合 計	47,652,000	41,555,715

#### 4. 入館者統計等

##### (1) 令和3年度博物館入館者数・利用者数

入館者数				その他 利用者数	合計人数	開館日数
一般	高校生	小・中学生	小 計			
4,453	35	861	5,349	3,124	8,473	255

その他利用者数内訳

利用事由	件 数	利用者数
講座・体験学習・バスツアー	28	490
出前講座	34 (学校関係10、一般24)	1,344 (学校関係444、一般900)
職場体験受け入れ	4	10
博物館実習受け入れ	1	2
取材・レファレンス	381	389
発表・シンポジウム	3	262
地域を創生するミュージアム活用実行委員会事業	17	607
他団体との連携等	1	20
合 計		3,124

##### (2) 令和3年度博物館入館者数月別集計表

\*小数点以下四捨五入

年 月	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一 般	高校生	小・中学生	小 計		
令和3年4月	348	1	23	372	26	14
5月	673	4	66	743	26	29
6月	338	5	125	468	26	18
7月 ※1	75	0	3	78	6	13
8月	396	4	32	432	26	17
9月	564	5	249	818	26	31
10月	400	1	105	506	27	19
11月	599	4	119	722	25	29
12月	354	0	35	389	24	16

年 月	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一 般	高校生	小・中学生	小 計		
令和4年1月 ※2	124	0	8	132	11	12
2月	153	4	9	166	6	28
3月 ※3	429	7	87	523	26	20
合 計	4,453	35	861	5,349	255	21

※1 7月8～31日／福島県の「南相馬市における新型コロナウイルス感染症集中対策」のため臨時休館

※2 1月18日～2月20日／福島県の新型コロナウイルス感染症「まん延防止重点措置」地域に指定されたため臨時休館

※3 3月17日／前日の福島県沖地震を受け、利用上の安全確認のため臨時休館

(3) 平成7年度～令和2年度博物館入館者数

\*小数点以下四捨五入

年 度	入館者数				開館日数	1日平均 入館者数
	一 般	高校生	小・中学生	小 計		
平成7年度				19,604	186	105
8年度	12,648	147	2,025	14,820	304	49
9年度	10,690	183	1,965	12,838	302	43
10年度	9,768	372	1,756	11,896	307	39
11年度	9,744	82	1,593	11,419	309	37
12年度	8,589	115	2,437	11,141	313	36
13年度	10,253	85	2,539	12,877	315	41
14年度	8,536	111	2,184	10,831	312	35
15年度	10,487	237	3,388	14,112	307	46
16年度	10,008	174	2,892	13,074	303	43
17年度	13,279	201	3,480	16,960	304	56
18年度	10,422	198	3,538	14,158	308	46
19年度	11,294	61	3,709	15,064	302	50
20年度	10,153	64	3,129	13,346	309	43
21年度	8,458	108	3,058	11,624	301	39
22年度	8,387	143	3,251	11,781	288	41
23年度	1,889	6	414	2,309	195	12
24年度	5,106	29	1,842	6,977	308	23
25年度	5,793	47	1,480	7,320	306	24
26年度	7,044	89	1,541	8,674	308	28
27年度	9,205	119	1,324	10,648	308	35
28年度	6,996	106	1,182	8,284	307	27
29年度	6,522	82	1,340	7,944	306	26
30年度	6,306	96	1,138	7,540	301	25
令和元年度	5,417	59	1,326	6,802	309	22
2年度	3,350	57	885	4,292	259	17
3年度	4,453	35	861	5,349	255	21
合 計	214,797	3,006	54,277	291,684	7,932	37

## VI 資料

### 1. 南相馬市立博物館条例

平成18年1月1日  
条例第203号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、歴史、民俗、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して市民の学習、学術及び文化の発展に資するため、南相馬市立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 南相馬市博物館

位置 南相馬市原町区牛来字出口194番地

(事業)

第3条 博物館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、民俗、考古、自然科学等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム等の資料(以下「博物館の資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館の資料に関する専門的かつ技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 博物館の資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (4) 博物館の資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)の観覧料は、別表のとおりとする。

2 市長は、期間を定めて特別の展示その他特別の催しを行う場合には、前項の規定にかかわらず、1,000円を越えない範囲内で別に観覧料を定めることができる。

3 展示品を観覧しようとする者は、観覧料を入館の際に納入しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 市長は、公益上必要があると認めるときは、前条の観覧料を減額し、又は免除することができる。

(利用の制限)

第6条 南相馬市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、博物館の利用を拒むことができる。

- (1) 適当な指導者又は付添人のない6歳未満の者
- (2) 泥酔者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人の迷惑となるおそれのある物品を携帯し、又は動物を伴う者
- (4) 係員の指示に従わない者
- (5) 前各号に掲げる者のほか、博物館の管理上支障を及ぼすおそれがあると認められた者

(協議会)

第7条 博物館法第20条第1項の規定に基づき、南相馬市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

(委員会)

第8条 博物館の収蔵及び展示資料購入の選定に関して調査審議を行わせるため、市長の附属機関として南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会(以下「委員会」という。)を置くことができる。

2 委員会は、前項の調査審議を行うほか、収蔵及び展示資料購入に関して市長又はその委任を受けた者に対して指導助言を行うことができる。

3 委員会は、20人以内の委員をもって構成する。

4 前条第3項及び第4項の規定は、委員会について準用する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日の前日までに、合併前の小高町埴谷・島尾記念文学資料館条例（平成12年小高町条例第21号）、鹿島町歴史民俗資料館条例（昭和56年鹿島町条例第11号）又は原町市博物館条例（平成6年原町市条例第34号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの条例の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則（平成18年条例第243号）

この条例は、公布の日から施行し、改正後の南相馬市附属機関設置条例等の一部を改正する条例の規定は、平成18年1月1日から適用する。

附 則（平成18年条例第285号）

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月28日条例第12号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第40号）

この条例は、公布の日から施行する。

別表（第4条関係）

南相馬市博物館観覧料

区 分	観覧料の額（1人につき）	
	個 人	団 体
一般	300円	250円
高校生	200円	150円
中学生及び小学生	100円	80円

備考

- 「団体」とは、20人以上の団体をいう。
- 引率者については、20人に1人の割合で無料とする。

## 2. 南相馬市立博物館規則

平成18年1月1日  
教育委員会規則第39号

(趣旨)

第1条 この規則は、南相馬市立博物館条例（平成18年南相馬市条例第203号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 南相馬市立博物館（以下「博物館」という。）の休館日は、次のとおりとする。

- 月曜日（休日に当たるときは、その直後の平日（日曜日及び祝日以外の日をいう。））
  - 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日までの日
- 2 前項の規定にかかわらず、南相馬市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、特に必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は前項に規定する休館日に臨時に開館することができる。

(開館時間等)

第3条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時45分までとする。ただし、博物館に入館できる時間（以下「入館時間」という。）は、午前9時から午後4時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は、特に必要があると認めるときは、同項に規定する開館時間又は入館時間を臨時に変更することができる。

(観覧券の交付)

第4条 博物館の館長（以下「館長」という。）は、条例第4条の規定による観覧料を納入した者に対し、観覧券（様式第1号）を交付するものとする。

(観覧料の減免及びその手続)

第5条 条例第5条の規定により、次の各号に掲げる場合においては、それぞれ当該各号に定める額の観覧料を減額し、又は免除するものとする。

- 市の区域内に存する小学校、中学校及び高等学校の児童生徒並びに市内に住所を有する小学生、中学生及

び高校生が観覧するとき 全額

- (2) 市の区域外に存する小学校、中学校及び高等学校の児童生徒が学校教育活動として観覧するとき 半額  
(引率者にあつては全額)
  - (3) 市が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき 全額
  - (4) 他の地方公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき 半額(引率者にあつては全額)
  - (5) 前4号に掲げる場合のほか、減免をすることが公益上適当であると認めるとき 全額
- 2 前項の規定により観覧料の減免を受けようとする者(前項第1号に規定する者を除く。)は、観覧しようとする日までに観覧料減免申請書(様式第2号)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、休日その他特別の日に博物館を開放する場合は、この限りでない。
- 3 館長は、前項本文の規定により観覧料の減免を承認したときは、観覧料減免承認書(様式第3号)を交付するものとする。

(遵守事項)

第6条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 博物館の施設、設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- (2) 館長の承認を得ないで、展示品の模写又は撮影をしないこと。
- (3) 所定の場所以外において、喫煙又は飲食をしないこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、館長が指示する事項

(損害賠償)

第7条 博物館を利用する者が故意又は過失により博物館の施設、設備、展示品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の定めるところにより、その損害を賠償しなければならない。

(協議会)

第8条 南相馬市立博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を1人置き、委員の互選により定める。

- 2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

第9条 協議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

- 2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければこれを開くことができない。
- 3 協議会の会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 協議会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(資料の寄託)

第10条 博物館は、展示又は調査研究の目的で博物館に収蔵する資料(以下「資料」という。)の寄託を受けることができる。

- 2 博物館に資料を寄託しようとする者は、南相馬市立博物館収蔵資料寄託申出書(様式第4号)により館長に申し出るものとする。
- 3 館長は、前項の規定により資料の寄託の申出があつた場合において、博物館の資料として当該寄託資料を保管し、又は一般の利用に供することが適当と認めるものについて受託することができる。
- 4 館長は、資料を受託したときは、南相馬市立博物館収蔵資料受託書(様式第5号)を寄託者に交付する。
- 5 館長は、受託した資料を展示する場合において、寄託者の同意があるときは、当該寄託資料に寄託者の氏名等を表示することができる。

(寄託期間等)

第11条 館長は、受託した資料については、原則として2年間受託するものとし、博物館の資料の管理上支障があるとき、又は寄託に際して博物館と寄託者の間に寄託期間の定めがある場合において寄託期間が満了したときは、受託した資料を寄託者に返還するものとする。

- 2 館長は、受託した資料について、博物館と寄託者の間に寄託期間の定めがある場合において寄託期間が満了する日の1月前までに寄託者から別段の申出がないときは、その満了の日の翌日から起算して1年間寄託を継続する旨の申出があつたものとみなして、当該寄託期間を延長するものとする。その延長に係る寄託期間が満了した場合も、同様とする。

(寄託等に要する費用の負担)

第12条 資料の寄託及び返還に要する運搬費その他の費用は、寄託者の負担とする。ただし、館長が特に理由があると認めるときは、この限りでない。

(寄託資料の損害賠償)

第13条 博物館の責めに帰することができない理由により、受託した資料を亡失し、又はき損したときは、博物館は、その損害賠償の責めを負わない。

## VI 資料

### (資料の寄贈)

第14条 博物館に資料を寄贈しようとする者は、南相馬市立博物館収蔵資料寄贈申出書（様式第6号）により館長に申し出るものとする。

2 館長は、前項の規定により資料の寄贈の申出があった場合において、博物館の資料として適当と認めるものについて受納することができる。

3 館長は、資料を受納したときは、南相馬市立博物館収蔵資料受納書（様式第7号）を寄贈者に交付する。

### (寄贈資料の取扱い)

第15条 館長は、寄贈された資料を展示する場合において、寄贈者から申出があるときは、当該寄贈資料に寄贈者の氏名等を表示することができる。

### (寄贈に要する費用の負担)

第16条 第12条の規定は、寄贈に要する費用の負担について準用する。

### (資料の館外貸出し)

第17条 博物館の資料は、貸出しすることができる。

2 資料の貸出しを受けることができる者は、国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣及び都道府県の教育委員会が指定した博物館に相当する施設とする。

3 資料の館外貸出しを受けようとする者は、市立博物館館外貸出許可申請書（様式第8号）を提出し、館長から市立博物館館外貸出許可書（様式第9号）の交付を受けなければならない。

### (事業計画の作成及び報告)

第18条 館長は、毎年翌年度において実施しようとする事業計画を協議会へ諮問し、年度末までに南相馬市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）の承認を受けなければならない。

2 館長は、年度終了後1箇月以内に事業計画の実施状況を取りまとめ、協議会を経て教育長に報告しなければならない。

### (博物館の警備及び防災)

第19条 館長は、年度始めに博物館に関する警備及び防災計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

### (その他)

第20条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

## 附 則

### (施行期日)

1 この規則は、平成18年1月1日から施行する。

### (経過措置)

2 この規則の施行の日の前日までに、合併前の小高町埴谷・島尾記念文学資料館管理規則（平成12年小高町教育委員会規則第12号）、鹿島町歴史民俗資料館条例施行規則（昭和56年鹿島町教育委員会規則第1号）又は原町市博物館規則（平成7年原町市規則第1号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの規則の相当規定によりなされたものとみなす。

### 附 則（平成18年教委規則第51号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

### 附 則（平成20年教委規則第5号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

### 附 則（平成24年3月30日教委規則第2号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

### 附 則（平成24年12月20日教委規則第7号）

### (施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

### (様式に関する経過措置)

2 この規則の施行の際、この規則による改正前の南相馬市立博物館規則の規定により作成されている様式書類は、なお当分の間これを使用することができる。

様式第1号（第4条関係）

様式第2号（第5条関係）

様式第3号（第5条関係）

様式第4号（第10条関係）

様式第5号（第10条関係）



様式第6号（第14条関係）  
様式第7号（第14条関係）  
様式第8号（第17条関係）  
様式第9号（第17条関係）

### 3. 南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会要綱

平成18年1月1日  
教育委員会告示第11号

（趣旨）

第1条 この告示は、南相馬市立博物館条例（平成18年度南相馬市条例第203号。以下「条例」という。）第8条の規定に基づき、南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 委員会に委員長及び副委員長を1人置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

（任務）

第3条 委員の任務は、教育長の諮問に応じ、次のとおりとする。

(1) 南相馬市立博物館の収蔵資料購入の選定

(2) 南相馬市立博物館の展示資料購入の選定

(3) 前2号に掲げるもののほか、収蔵及び展示資料購入に係る指導助言

（専門部会）

第4条 専門的な調査選定を行うため、委員会に専門部会を置き、必要に応じて審議する。

2 専門部会は、甲冑部会、刀剣部会、図書部会及び美術工芸部会とし、委員会の委員をもって構成する。

3 各専門部会の委員は、5人以内とする。

（会議）

第5条 委員会及び専門部会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員長は、委員会及び専門部会の会議の審議結果を南相馬市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に答申する。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

（その他）

第7条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この告示は、平成18年1月1日から施行する。

### 4. 南相馬市博物館収集展示委員会設置要綱

（設置）

第1条 南相馬市博物館（以下「博物館」という。）に収蔵する資料の収集並びに展示計画について専門的な指導助言を得るため、南相馬市博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織）

第2条 委員会は、20人以内の委員をもって構成する。

2 委員会の委員は、南相馬市教育委員会が委嘱する。

3 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長副委員長は、委員の互選により選出する。

4 委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長事故あるときは、その職務を代理する。

（任務）

第3条 委員の任務は、教育長の求めに応じ、次のとおりとする。

一 博物館の収蔵資料の収集及び情報の提供。

二 収蔵資料の調査研究にかかる指導助言。

三 収蔵資料の展示計画及び展示にかかる指導助言。

## VI 資料

(専門部会)

第4条 専門的な調査研究を行うため、委員会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、歴史部会、民俗部会、考古部会、自然部会とし委員会の委員をもって構成する。

3 専門部会に部会長を置き、部会に属する専門的事項を掌る。

(任期)

第5条 委員会の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、専門部会は、部会長が随時招集することができる。

2 部会長は、専門部会の会議の内容を委員長に報告し、委員会の会議については、委員長が専門部会の内容も含めて教育長に報告する。

3 委員長が特に必要と認めた場合には、専門的分野に関する学識経験者を特別委員として委嘱するよう教育長に具申することができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

付 則

この要綱は、平成18年1月1日から施行する。

## 5. 南相馬市博物館収集展示委員会運営細則

(目的)

第1条 南相馬市博物館収集展示委員会の円滑な運営を図るため、同設置要綱第8条の規定により、運営に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 専門部会は、5人以内の委員をもって構成する。

2 専門部会の部会長は、部員の互選により選出する。

(専門部会の任務)

第3条 専門部会の任務は、次のとおりとする。

- 一 部会に属する資料の調査、収集、保管、展示にかかる指導助言
- 二 常設展、企画展等の展示計画並びに展示方法・期間にかかる指導助言
- 三 部会相互の情報交換と連携・協力

(会議)

第4条 委員会の会議は、毎年4月と10月の2回招集し、委員長がその議長となる。

2 専門部会は、その部会に属する企画展の開催1年前までに招集し、部会長がとりまとめる。

3 企画展にかかる専門部会は、2回以上招集する。

4 専門部会の部会長は、企画展の計画案を委員会に提案し、承認を得る。

5 部会長は、企画展の実施状況をとりまとめ、委員会に報告する。

(庶務)

第5条 専門部会に関する庶務は、南相馬市博物館の担当学芸員が処理する。

付 則

この運営細則は、平成18年1月1日から施行する。

## 6. 南相馬市博物館資料調査協力員会設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、南相馬市博物館に収蔵する資料の収集にあたり、資料の所在情報を得るため南相馬市博物館資料調査協力員会（以下「協力員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 協力員会は、30人以内の協力員を持って構成する。

2 協力員会の協力員は、南相馬市教育委員会が委嘱する。

3 協力員会に会長及び副会長を置き、会長、副会長は、協力員の互選により選出する。

4 会長は、協力員会を代表し、会務を掌理する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

(任務)

第3条 協力員の任務は南相馬市博物館館長（以下「館長」という。）の求めに応じ次のとおりとする。

- 一 資料所在の情報提供
- 二 資料所有者の紹介
- 三 資料の収集協力

(任期)

第4条 協力員会の協力員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 協力員に欠員が生じた場合の補欠の協力員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 協力員会の会議は、会長が招集し、部会は部会長が随時招集することができる。

2 会長は、協力員会の会議の内容を、部会長は部会の会議の内容を館長に報告する。

(庶務)

第6条 協力員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協力員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

付 則

この要綱は、平成18年1月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。



## 南相馬市博物館 令和3年度 年報

令和4年11月 発行

編集 南相馬市博物館

〒975-0051 福島県南相馬市原町区牛来字出口194番地

TEL 0244 (23) 6421 FAX 0244 (24) 6933

<https://www.city.minamisoma.lg.jp>

E-mail: [hakubutsukan@minamisoma.lg.jp](mailto:hakubutsukan@minamisoma.lg.jp)